

福岡大学医学部同窓会

2002年秋号
烏帽子会会報

33
号

同窓会設立20周年記念号



■病院への提言 4

■平成13年度評議員会議事録 6

■平成15年度福岡大学医学部同窓会 研究奨励賞募集要項 18

■会員寄稿 忘れられぬ一言・忘れてはならぬ体験 23

目 次

・会長挨拶		
就任挨拶	高木忠博	1
・第21回烏帽子会総会報告		
「同窓会って楽しいんだ!!」	田中伸之介	2
・提 言		
「筑紫病院への提言」をたずさえて	高木忠博	4
・平成13年度評議員会議事録		6
・平成14年度同窓会研究奨励賞選考報告	朔啓二郎	15
・平成14年度研究奨励賞受賞の言葉		
心房再分極のばらつきを表す電気生理学的新指標： 各種心房ペーリングの電気生理学的效果の比較（論文）	小川正浩	15
Establishment of a new human synovial sarcoma cell line, FU-SY-1, that expresses c-Met receptor and its ligand hepatocyte growth factor (論文)	西尾淳	16
・平成13年度研究奨励賞研究報告		
アンジオテンシンⅡタイプ2型レセプターは リガンド非依存性にアポトーシスを引き起こすか（論文）	三浦伸一郎	16
肝線維化における アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤の影響について（計画）	岩田郁	17
・平成15年度 福岡大学医学部同窓会研究奨励賞募集要項		18
・研究奨励賞暦年受賞者名簿		19
・激励と歓迎		
国試激励会	井上隆則	20
新入生歓迎会	武末淳	20
M4激励会	井上隆則	21
・医局紹介		
筑紫病院耳鼻咽喉科の小さな歴史	森本健三 宮城司道	22 22
・会員寄稿		
忘れられぬ一言・忘れてはならぬ体験 一卒後20年に寄せて 卒後研修について（他大学に行くことは意義があるのか？）	長谷川英夫	23
一研修1年目を過ぎて考えること一	Y.S	24
・キャンパス便り		
平成14年度 第54回西医体結果報告	渡邊航之助	26
空手・西医体を終えて	小野友輔	27
築いていこう新しい医療の歴史を！わが福岡大学から	藤山俊一郎	28
「対話」の価値	原田聰志	29
・烏帽子会資料		
平成13年度収入支出決算		31
平成13年度残金処分		31
平成13年度特別会計決算		31
平成13年度財産目録		32
平成14年度事業計画		32
平成14年度収入支出予算		33
教育職員人事		33
本学出身の教授、助教授名簿		34
正会員業態別人員		34
医局長医長名簿		35
・事務局からのご連絡		36
・グッズ案内		37

会長挨拶

就任挨拶

烏帽子会 会長 高木 忠博 (1回生)



高木会長

成人。この言葉は、その昔自分が成人式を迎えた時に、何か漠然とした圧力を感じながらも周りから祝福を受け、お祝いを頂いた事を思いだします。

我が烏帽子会も今年は20周年で二十歳の成人式を迎えますが、同窓会と言う共同体も人間の集団ですので、人間と同じ様に「成長」と言う宿命を背負わされた集団でもあります。

我々は HATACHI !です。人間なら一番初々しく一生で一番美しい時期です。またこれから大人の世界に飛び出す期待と恐れとの交錯する年齢でもあります。しかしこの20周年(二十歳)までに、卒業生2620人の努力のおかげで、同窓会としての骨格が一応完成の域にまで漕ぎ着いた事を、我々は心から喜んで良いのではないか?と思います。

小生はその様な烏帽子会の歴史の中で会長として職を頂き、20周年に遭遇させて頂いた事を心の底から感謝致します。本当に有難うございました。皆さんのお蔭です。小生はこの仕事をさせて頂きながら、この福岡大学医学部、烏帽子会と言う共同体は、従来の価値観の尺度では測れない、非常に新しい価値観を作り出すpotencyを秘めた集団ではないかと心底思います。

70年代に新設された医学部の中で、20年と言う時間内でこれ程の形を整える事の出来た大学は非常に稀な様です。全く0の状態の時に、「同窓会」の存在の必要性は理解していても、全く経験の無い同窓会組織を立ち上げた山崎前会長、吉田副会長以下理事の方々、創設期

の人達の苦労は並み大抵ではなかったと推察されます。しかしこの時期に、現在の烏帽子会の姿の「萌芽」、「エネルギー」がビッグバンの様に生まれたのだと思います。それが、10年と言う時間の中でジックリと育まれ、充填され、そして我々にバトンタッチされたのだと思います。このエネルギーは、形としては全く目には見えませんが確実に醸造されていたと思います。これが無ければ、現在の烏帽子会の姿は無かったと思います。

これからはこの20歳の同窓会をどの様な組織に成長させて行くのか?と言う、次の段階に入ったと思います。人間も二十歳からの成長は人間関係の良し悪し、経済状態等の「環境」と言われるモノに強く影響され左右されて来ます。最終的な自分達の「型」を形成する最も大切な時期をこれから迎える事だろうと認識しています。心が引き締まる思いです。

しかし色々言っても常に心の底流に、自分達のIDENTITYを強烈に意識する事が基本だと思います。これを元にしてしか「愛着」と言う言葉は生まれません。この「愛着」が行動力を引き起こし、「同窓会」と言う組織を突き動かしていくと思っています。

幸いにも福岡大学医学部に来た人間達は、その殆どが非常に類似した家庭環境の中で育てられたという均一性があり、この素晴らしい条件をもとに、全国ドッコにも無い新しい医師の価値観を、「烏帽子スピリッツ」として、総力挙げて作り上げてみようじゃないですか。

これからが本番です! 同志諸君、頑張りましょう! 小生、ベストを尽くし、歴史を大切にして、その中から学んで行きたいと思いま



第21回烏帽子会総会報告 「同窓会って楽しいんだ!!」

第21回烏帽子会総会実行委員長 田 中 伸之介（5回生）

去る7月6日土曜日、5回生と15回生の合同幹事による第21回福岡大学医学部同窓会（烏帽子会）総会が西鉄グランドホテルにて開催された。今年は同窓会設立20周年とのことで、福岡大学同窓会（有信会）の理事の方々にも多数ご参加いただき、参加者総勢は158名（うち5回生38名、15回生20名）にのぼり、例年になく華やかな総会となった。

昨年5月2日に実行委員会を立ち上げて以来、同窓会って何なんだろうかと思案を続けた結果、結局のところそのコンセプトは、「理屈をこねても仕様が無い、とにかく楽しくなければ同窓会じゃない」であった。この観点から、総会テーマを「Now and then 今、そしてあの頃」と副実行委員長の松田年浩君が提案してくれた。実行委員会の面々もすぐに賛成してくれた。「みんな肩の力を抜いて同窓会の原点に還ろう、難しいことはひとまずお休みして、同じ空気を吸って生きていた仲間達とあの頃を懐かしく思い出しながら、今そして将来を語り合おう」というのである。

そこで総会は恒例であった外部からの講演者は呼ばず、われわれ手作りの楽しいイベントを準備企画することとした。5回生の原田迅明君が率いるジャズトリオ「JINMEI・PROJECT」の生演奏、当時を偲ぶ思い出ビデオの作製と上映、次期当番幹事への引継ぎ式、烏帽子会エンブレムを基調とした濃淡2種類の総会当番記念のステッカー作製などなど。手前味噌ながら、これらの各イベントは大成功であったと思う。多くの

第21回福岡大学医学部烏帽子会総会
懇親会・設立20周年記念会



有信会理事の方々



恩師（左から白川、朝長、松岡先生）



輪になって

先輩方からもたくさんのお誉めの言葉を頂戴した。改めて協力いただいだ当番学年のみなさんに感謝したい。

特に思い出ビデオは小生が是非ともやりたかった企画で、それは郷愁に浸ることこそ同窓会の本質かもしれないと思ったからである。当時の懐かしい写真や資料は、多くの卒業アルバムと数人の鳥帽子会会員からお借りしたプライベート写真の中からピックアップし、コンピューター入力の上、BGMをつけて編集した。我ながら素晴らしい作品ができたと今も自慢に思っている。なお作製にあつては医学部情報センターの大久保様に大変ご尽力をいただいた。このビデオは我ら当番会期の宝として今後も大切に保存していきたい。

二次会も楽しかった。流石に昔のように夜を徹して飲み通すパワーは無くなつたが、30名ほど集まつた二次会は大変盛り上がり、数名は三次会にまで足を伸ばした。確かに体力は落ちたけど、気持ちはまだまだ大学生。酒癖の悪いやつ、笑顔の素晴らしい彼女、いつもにこにこ朗らかなやつ、皆な本当に楽しそうであった。昔同様に無邪氣で楽しい時間はあつという間に過ぎていった。

皆さん、やっぱり同窓会は楽しいものです。理屈はどうでもいい、若かったあの頃、医師になるんだという共通の目的のために、日夜勉強に、遊びに一緒になってそのエネルギーを費やした本当に楽しかったあの頃を年に一度は思い出してみるのもいいものです。

今年参加した方も、今年は参加できなかつた方も、そして何か同窓会に縁遠くなつた方も、是非来年は参加してみて下さい。忘れかけていた純粋で、エネルギーッシュな自分にきっとまた出会えるはずです。

来年の当番幹事の皆さん、また楽しい同窓会を宜しくお願ひします。鳥帽子会パンザイ。



JINMEI・PROJECT



幹事会（5回、15回生）の面々



校歌齊唱



「筑紫病院への提言」をたずさえて

鳥帽子会会長 高木忠博（1回生）

木の葉の色づく暇もなく、きびしい寒さにうち震える今日この頃です。鳥帽子会の御同輩におかれましては、ご健勝のことと推察申し上げます。

さて医療界は日本の少子高齢化、最悪の経済情勢の中、改革という名のもとに大きな嵐の中に突入した感があります。医学部・大学病院においても例に漏れず、卒前卒後教育を含め、変革がいやおうなしに求められ、個々の大学・大学病院の存続すら危ぶまれている状況です。国立大学及び病院は独立行政法人化を目前にひかえ私学以上に大胆にそして着実にその基礎を固めつつあるように思います。

これに対して、平成17年には地下鉄乗り入れのせまる福大病院や、病院の老朽化と構造的機能低下に喘ぐ筑紫病院に関し、積極的かつ前向きな新築構想は全く停止した状態で刻々と時は流れ、ついに我々鳥帽子会執行部は業を煮やし行動に出ることを決意しました。菊池副学長、池原医学部長ならびに八尾前筑紫病院長の了解を得て、山下学長・川合理事長に個別に面談を求め、両大学病院の必要性と再び福大病院の名を世に高らかに示されるよう、そのために学内学外で徐々に力をたくわえてきた卒業生が全力を傾注することを約束し働きかけました。残念ながら筑紫病院に関しては、前向きの発言は全くなく、むしろ取り潰した方が良いのではないかと思っていたとのご意見であった。しかし、学長サイドが東京の経営リサーチ会社に調査を依頼したとの連絡があり、本年10月、5年後に転地新築が最良の方法であろうとの答申を得ることができました。我々執行部は歓喜しました。しかし同時にもう一つの大変な問題が解決されていないことを忘れずにいました。それはハード面のみならず、ソフト面の改革が必要ではないかということです。即ち筑紫病院は古き医局講座制の功罪を凝縮した形で合わせ持つており、これを改めなければ、病院の将来はないと思っていたのです。八尾、有馬両

教授に代表される、並外れた臨床力と強烈なカリスマ性があり、個々の力で貴重な症例を集め、医局員を増やし一人前の臨床医を育て守る力は功である。しかし、両先生ともに5年以内に退官されてしまう。逆に七隈との対等、同格化を主張し、受け入れられない自らの不遇に活力を失い、自暴自棄に落ち込み、七隈との人事交流を否定し、卒業生のスタッフを排除し、他学出身者をスタッフに求め、病院の方針に消極的で医局の垣根を高くした自閉的な医局もあると聞き及びます。これではいくら建物が新しくなっても破滅の道を歩むであろうし、鳥帽子会は全面的に協力すると言う訳にはいかないのです。筑紫病院は七隈の人事の傘下であって良い。筑紫の教授は臨床教授、部長であり教授のエゴは許されない。医局の垣根を全て取り外し、病院長の権限を高め、病院長の号令のもとに心を一つにして闘っていかなければならない。そして、高度医療、救急一般医療を確実に幅広くしかも内容の濃い研修のできる病院として、多くの若い医師が研修を希望しあこがれる病院であってほしい。その結果、地域の住民や医療関係者から厚い信頼と敬愛を受ける病院となってほしいのです。このことは誰かが言わなければならない。ただ現教授陣は我々卒業生の恩師であり、このような苦言を申し立てる立場になることは、思いもよらぬ事でした。

11月1日、筑紫病院長と会食をする機会を得た。院長森園先生は「とにかくまじめな先生」という触れ込み以外は我々に予備知識はなく、厳格そうなご尊顔を押し三人（高木、重田、松本）の顔に緊張が走った。先生は筑紫病院の院長としての現状とその苦悩を丁寧に一つ一つ語り、我々の話を真摯に受け止め、ご返答いただいた。鹿児島出身の先生に焼酎を勧め、我々もご相伴させていただいたころより自制心が薄れ、先生に尋ねた。「教授になるということは双六の上がりを意味するのでしょうか。」先生は一段と声を高くして、即座に答えた。「否。

ちがいます。双六のあがりであってはならんのです。」「医局講座制の弊害を取り除かなくちゃいかんのですよ。あなたたちの言うとおり。」とお答えになり我々は仰天した。先生はアメリカで長期の大学生活を送られ、アメリカと日本の大学の長所短所を我々以上、はるかにご存知だったのです。誠実、冷静かつ柔軟で幅広い視野をもたれ、情熱と包容力のある先生であるこ

とを実感しました。生真面目だけの先生という先入観を抱いていた我々自身大いに恥じ三拝三礼し、微力ながら先生の応援団を無理やり買って出たしだいででした。夜更けまで酒を酌み交わしながらやかな雰囲気で会談を終えました。外に出ると、寒風にさらされた漆黒の街を肩すぼめて人々は歩いていた。我々三人はその涼やかな風を気持ちよく頬に感じ帰路につきました。

福大筑紫病院への提言

鳥帽子会会長 高木忠博

福大筑紫病院は筑紫野地区の今後の人団動態、他病院施設の構成、規模配慮などの背景より、多機能かつ最高レベルの医療を担う中心的病院、また卒業生の研修の場として最も優れた環境、価値のある病院として、その条件を満たしていると思われます。

しかし、残念ながら現在のその窮状はハード面のみならず、ソフト面においても我々の思う理想像とはかけ離れています。本年10月筑紫病院の再建計画の道筋がしめされ、我々同窓会、及び地元の同窓開業医も大いに期待し、最大限の協力を惜しまない覚悟であります。またこれを機会に我々は以下のごとく福大筑紫病院の将来像について僭越ながらご提言申し上げたい。

- ①旧来の医局講座制の弊害を筑紫病院から取り去る事。即ち、人事権を含む院長権限を強化し、教授・スタッフの任期制導入と本学の人的交流を拡大すること。
- ②臨床・教育に秀でた福大卒業生をスタッフの中心として登用し、それを補完する目的で他大学出身者の優れた臨床家、教育者、人格者を招聘すること。しかも一大学出身者に偏らない配慮をすること。
- ③高度医療を含む、救急医療、一般医療を中心とし、地域住民及び医療関係者のニーズに充分答える事のできる病院となること。
- ④臨床をテーマとした研究、学会発表も今以上に盛んにすること。
- ⑤将来の独立採算制を視野に入れ、収益性も充分配慮し、独自性のある効率のよい経営方針を常に模索すること。

平成13年度評議員会議事録

除名規定成立

除名解除規定も

◆日 時 平成14年4月27日（土）16時
◆場 所 福岡市天神 福岡国際ホール
◆出席者 評議員 67名中
実出席：40名、委任出席：9名
支部長 17名中 出席：12名
(うち評議員兼務9名再掲)

◆経過報告 高木会長

おかげで鳥帽子会も一歩一歩順調に同窓会活動が充実してきています。この同窓会が動き始めてから丁度今年で20年、医学部は創立30周年を迎えることとなりました。経過報告として皆さんにご報告しなければならないことは、前年度評議員会でも申し上げましたように学生に対する活動を重点的にやって来たと言うことです。その結果については後ほど詳しく担当理事から報告があります。その外、小さな事ですが同窓会室をきれいにしました。同窓会室はきちんとした場所にきちんとした形をしていなければいけないという考え方からです。是非大学にお出での節は見て下さい。これから十分なご討議をお願いします。

◆議事

1. 平成13年度収入支出決算見込

池田事務局長説明

2. 平成14年度事業計画（案）

松本担当理事説明

【松本担当理事】大きな3本柱 1) 研究奨励賞 2) 学生対策 3) 国試対策です。今回研究奨励賞に関しては朔教授に近況報告してもらいます。

1) 研究奨励賞

【朔担当理事】研究奨励賞は毎年研究奨励賞選考委員会を開いて行っています。昨年は応募が少なかったので、1件75万円ずつの2件150万円となりました。将来的にはこの研究奨励賞の枠は増やしていくと考えています。関西、関東方面の同窓会の奨励賞金額は300万、500万という金額です。そのあたりを目標にしていきたいと考えています。今年もたくさんの応募が来ていますので、5月末あたりに選考委員会を開きたいと思っています。

【松本】研究奨励賞に関しては着々と成果もあがっていますし、立派な論文も増えています。同窓生を同窓会が選んでその中のすばらしいものに奨励賞を出すということです。県下の近くの私学では我々の予算の約10倍位の奨励賞を出している所もありますが、今のところ朔先生にはこれぐらいで勘弁してもらっています。

す。

2) 学生対策

【笠担当理事】学生対策と申しましても早い話が学生さんを学年ごとに会場に集まって貰い、大学の副担任、福岡支部・北九州支部のOBの方に来ていただいて、食事をしながらお話を来ていただくという会です。6年生では国試激励会という名目で4月25日に終わつたばかりですが今年で3年目、4年生ではM4激励会という名目で10月に行われますが今年で2年目、1年生では新入生歓迎会という名目で5月25日に行いますが2年目です。最初同窓会の方としても、学生さんの教育に直接関わっていない同窓会員が、学生さんと会ってどういう意味があるのか判らなかったというのが本音でした。朔先生が教授になられて、「技術論とか勉強の仕方ということよりも、学生さんの先輩にはこんな素晴らしい臨床家がいるとか、今は臨床家だがこういう経験の持ち主だと、今はこうした事をお話しするだけでも大変学生には意味があるのではないか」というお話をありました。3年前の8、9月にそういう話が出来て、企画を上げて日程を組んだのが11月下旬だったと思います。その時には、6年生にとっては国家試験も近いし、どうして同窓会がそんなことをするのか、まして、天神まで行かなくてはならないのかという疑問もありました。しかしやってみると、酒の力もあったのか、非常に力付けられたと言う話を後で伺いました。4年生に関して言えば、実施したのは4年の10月でしたが「学年全体で大学以外の所で会ったのは初めてだ。」という話を聞いて驚きました。学年コンパをすればいいと言う話ではありませんが、皆様方も大学に入られて6年間、100人がずっと一緒にという訳ではなかったにしても、同級生は何年経っても、卒業すればまた年数が経てば絆は深いと思うのですがそういうものもない。国家試験の日数も今は3日間になっています。昔のSGT今はBSLといいますが、現在、国家レベルでSGT出席資格国家試験が検討されていると聞いています。これは所謂臨床の講義が終わって臨床実習を受けさせてくれる資格、つまり学生の身分として患者さんの前に出る事の出来る資格試験ということです。そうなれば学年全体で纏まらなければなかなか進まないのではないかと思います。幸い予算化も可能となり、事業の1つとして掲げができる様になりました。この事だけでは不十分でしょうが、先ず目に見える合格率の向上に期待したいと思います。あともう一つ、これは随分先の話になるかもしれません、学生さんとの会合は1年生、4年生、6年生、国試終了日の4回行つ

ています。だんだん大学に居るO Bの出席も増えています。私の医局の先輩は九大出の助手ですが、昨年初めて6年生の副担任になられました。しかし九大にはそういうシステムがなかったのでどうしていいか判らなかつた、と聞きました。なるほどと思ったのですが、今の学生さん達が卒業してスタッフになり副担任となつた時、自分達が受けて良かったと思われた事を、その時の学生さん達にフィードバックしてくれるだろうと考えながら学生対策に励んでいます。

3) 国試対策

[朔] 国家試験の情報は、今日の資料の中にもあります、新卒で94人受けて90人合格です。4人しか落ちなかつたので合格率からすると95.7%となり、私立大学では8番目の合格率となります。九州の中で福岡県にも4つほど医学部がありますが、その中でもトップで、九大、久留米大、産業医大を大きく離しているという状況です。昨日から、学内の廊下を歩くと先生方から「おめでとうございます」と言葉をいただけて非常に嬉しく思っています。国家試験の合格率が上がらないとどうしようもない以前から言っておりましたが、来年、再来年にかけて100%を目指したいと考えています。国試対策費としてたいした金額ではありませんが、国家試験の時にいろいろしてくれると助かります。例えば5年生が6年生の荷物管理をしてくれたり、4年生がコピーしてくれたり、卒業した連中がホテルに行ってそのコピーを選別してくれたりしています。その時に掛かる費用に使わせて頂いています。学生対策に随分お金を使うことは福岡大学ならではのことかもしれません、ここ1、2年明らかに効果が出てきているのではないかと思っています。

[松本] 補足しますと学生対策で年に3回も4回も福新楼に行く機会があり、行く度に福岡支部のメンバーの方が応援して下さるし、学内は朔先生、林先生を頂点に講師、助教授あたりの先生がぞろりと来てくれますし、学生も含めて福大が非常に連帯感が強くなっていることを実感しています。飲んで騒いで最後に校歌を歌うのですが、この間は1年生でしたか「いい歌ですね～。これ覚えよう！」と言って帰る姿を見た時、飲んで初めてお互いによく知り合えると実感しました。また卒業生が立派になっている、そしてしゃべらせると次々とすばらしいことを言ってくれて本当に僕らも勉強になりました。結果は着実に現れてきているようです。福岡ではナンバーワンの新卒者国家試験合格率です。しかしだだ喜んでばかりいられない部分もあります。だいたい8割から9割の学生が参加してくれますが、残った1割、例えば先日の6年生を見ると留年組の班が1人も出てこなかつたり、国試浪人をしている人達への助力が出来ないという現実があります。総合では85%の国家試験合格率ですが、落ちた人達とか留年した人達の合格率が上がれば、それもグンと上がると思います。こういった事業は3年前に国家試験がドベから2、3番になった時、会長と執行部

は非常に悶々たるものがあつたし、医局への歩留まりも非常に悪く、教授連は素知らぬ顔をしているようですが悩んでいた時期がありました。それから勢いよくこういう事に力を尽くそうということになりました。そこで朔先生も教授になられたし、一気に行動を始めたらすぐ良い結果が出てる様に思います。

[重田理事] 三大事業を中心事業計画案の報告をしていただきました。同窓会活動のすべてが、この事業計画案に出ておりますので何かご質問がありませんか。

[筑後支部：朝倉] 国試の慰労会は当日されるですか？皆さん8割、9割の方が出席されるのですか？

[松本理事] そのとおりで、昨年は福大で国家試験がありました。終わったら直ぐ歩いて移動して、地下食堂で慰労会を行いました。今年は九産大で試験がありましたので、バスで行って試験を受けバスで帰って来て地下食堂で行いました。大学でする理由は学内の先生方にたくさん来ていただいて、「どうやったか？」「よう頑張ったな」「お疲れさん」と言って貰うためです。

[関西支部：中川] 激励会の事ですが、学生のモチベーションを高める事が大事なことだから、学生に「何故これをやるのか」という理由付けを説明する必要があると思います。学生にすれば個人の問題と捉えていると思います。確かに国家試験の合否は個人の問題ですが、同窓会としてみんなで応援しているんだというモチベーションを、事業をやるからには学生に説明しておいた方が大事だと思います。決して1人で受験しているわけではない。同窓会2600名が支えている事を是非伝えて欲しいと思います。

[松本] 仰るとおりです。いつも激励会の最後に重田先生が仰るのですが、「あなた達の味方は、あなた達のご両親と、我々同窓会のメンバーしか居ないんだ」と。この一言に言い尽きるんだろうと思います。激励会の時には出席していただいた先生方全員にスピーチして頂くんですが、1人、1人違いますし、厳しかったり、優しかったりしますが全部励ます言葉です。この言葉は毎回やる度に伝わってきますし、学生の間に同窓会がどういう事をしているのか大体認識されつつある様に思います。現実に来て下さった先生方はお解りだと思いますが、福岡支部の先生方も毎回毎回大変です。早めに日時等のお知らせをしたいと思っておりますので、遠くからでも来て頂いて「今の学生気質は？」と見て頂きたいと思います。それは素晴らしい会になっております。

[重田] ご理解いただくと致しまして、平成14年度の事業計画案の承認頂けますでしょうか？（拍手を持って承認される。）

3. 平成14年度収入支出予算（案）

池田事務局長説明

[重田] 議題2の事業計画を入れた14年度の収入支

出予算案が以上の様になっております。5年前の予算案が1千万円と覚えておられると思います。今や予算の大きさが2千万円になりました。我々が試算致しまして、あと人数が2千人増えますので大体予算が最終的には4千万円になります。20年後ですが、現在においては2千万円になったとご報告致しておきます。この中で1つ、雑費の医学部創立30周年事業協力金200万円が計上されていますが、そのことにつきまして松本理事から子細を報告して貰います。

〔松本〕 医学部創立20周年の時、同窓会から50万円程援助しております。25周年の時quarter centuryということで100万円しております。今回の30周年は盛大にやりたいということで場所はアクロス福岡が予定されています。委員長を放射線科の岡崎教授がされます。また有名で、お話の上手な放射線の市川平三郎氏の講演を、学生にも卒業生にもみんな来て聞いて欲しいと考えてあります。医学部の創立記念事業は卒業生の為にあるんだということで、準備委員会のメンバーには朔先生、林先生を始め、母校出身者が多数おられます。この準備委員会は学内の組織ですが、学外の同窓生も入ってくれということで会長から指名され僕が伺いました。岡崎先生の総予算案は500万円でした。そこで委員長から準備委員の教授、先生方に1人50万づつ業者にお願いして集めて欲しいという打診がありました。しかし状況の厳しい折、それは無理だという意見が強く途方に暮れています。私は高木会長より、医学部の創立記念だし予算規模も大きくなつたので、200万円位なら生き金として出していいよと含まされていました。そこで200万円出させて貰うことを申し出ました。そのことで大変その時の場がホットし、岡崎先生も非常に喜んで下さいました。

〔朔〕 10月に行われますが、特別講演と生活習慣病を中心としたシンポジウムと一緒にやろうと思っています。

〔松本理事〕 支部活動援助費100万円について申し上げます。3年間支部にお任せして年会費を徴収して頂きました。支部長が各支部のメンバーに請求して会費を集め本部に払って頂くというご苦労をおかけしていました。見事にすばらしい成果を上げて頂きまして改めて御礼申し上げます。非常に順調な経過でこれは是非生かしていきたいと考えています。が、残念ながらそれが上手く出来ていない所もあります。汗を流して頑張って下さっている所と、そうでない所があり、幾分還元の仕方を変えた方がいいのではないかと考えています。例えば、支部で活動が無理な所は本部徴収します。だから、通信費が本部の方では必要になります。逆に支部が全部賄っている所は支部が通信費を負担しているわけですから、幾ばくか（例えば2割、1万円貰えば2千円を通信費等に使用）各支部に還元させて頂きたい。そうすればその支部は、益々通信活動、集会等が盛んに行われて行くだろう。またそれが出来

ない支部はそれを目標に励んでいただきたい。これは、会長のしっかりした支部を作るという意向に沿った形で実は理事会で話が進められました。最終的には皆さんに承認を頂かなくていけないのですが、その2割の金額がこの資料に出てきているわけです。

これを決めた基準というのが、支部の方で徴収が出来ませんと言われる支部があったからです。支部長が徴収を全くされていない支部のことです。そういう所と、頑張って徴収されている所と全く差を付けないという訳にはいかないです。3年間頑張って下さいと申し上げた訳ですからその中で①うちはできません。②本部に払って下さいと声は掛けますが支部では集めません。③声かけもしない。支部徴収はしない。する気もないと仰る支部長がいらっしゃいます。%は関係ないです。10%でも5%でも結構なのです。集めて本部に出す事をして下さっている支部には、集めて下さった人数分の20%を「ご苦労様でした」という意味で還元させて頂きたい。支部徴収している支部と全くしていない支部とを同じく同列で扱うわけにはいかない気がします。

〔重田〕 それぞれの支部の独自性と状況、地域性がありまして、本部から一律、横並びというのが難しいです。我々が規定を決める事は簡単ですが、その支部をどう動かすか、どう動いていくか、そこまでの規定は決めていません。支部内で規定を決めて活動して頂くことになっていますので、横並びで見ると不揃いがある様に見えますが、同窓会の支部とはそういうものだと僕は思っています。やる所とやらない所、一つの基準で見ればやっている、やっていない所になりますが、同窓会の支部とは非常に難しい部分がありますのでご了解頂けたらと思っています。これにつきましては後でもう一度ご提案したいと思いますので、一応支部活動援助金100万円計上させて頂いて、平成14年度収入支出予算案をご承認頂きたいと思いますがよろしいでしょうか？

（拍手を持って承認される）

4. 福岡大学医学部同窓会会則の改正

田野担当理事説明

5. 福岡大学医学部同窓会会則の細則の改正

〃

〔田野担当理事〕 昨年に引き続き再提出させて頂きます。まず福岡大学医学部同窓会会則の改正案として第5章、懲罰規定を設け、「第15条 著しく本会の名誉を傷つけた会員はこれを除名する事ができる」を新設。同じく福岡大学医学部同窓会会則の細則の改正案として、「第9条会則第15条による除名は理事会の議を経て評議員会の議決に拠らなければならない」を新設をご提案致します。

〔重田〕 昨年提案させて頂きました議論が伯仲致しましたので、一度支部を持って帰って頂き再提案いたしました。理事会でも何度も話し合いを致しましたが、

まず支部の御意見をお聞きしたいと思います。

【星子長崎支部長】 本会の名誉を傷つけたとあります
が、どういう基準があるかというのが一番の問題です。

【重田】 理事会で考えた基準と言いますか考え方を説明させて頂きます。こういうものを出すと我々同窓会が裁判官になったようなイメージを与えると思いますが、決してそういうことを我々がするということではありません。ある程度の基準はあると思います。しかし明確に具体的な基準を決めるることは難しいものです。ただ我々の中には常識がありますから、例えば重い刑事罰に値する様な方が出たら率先して除名すべきだという意見が強いようです。会が社会的に成熟したものであればあるほど除名規定は必要ではないかということまで提案させて頂きました。

【田野】 懲罰という言葉を使っておりますが、これは決して各個人個人に対しての攻撃を目的としたものではなく、各個人の責任において反省を促すことが目的であるということです。そして一番の意味合いは、同窓会本体を守るために危機管理であり、成熟した同窓会のより成熟した会則にするためのものです。それでもう一つ大切なことは、その実行に当たっては理事会、評議員会で十分な常識をもって討議を加えて結論を出すことです。また、懲罰を受けた個人に対してもご本人のご希望があれば後々復会の機会も与える可能性も残っているということです。

【広島支部：横手】 復会の機会があるということは何処に書かれていますか？

【田野】 ここに詳しく書かないで、理事会、評議員会等で決めたいと思っています。

【横手】 復会を認めることがあるのであれば、明文化した方がいいのではないでしょうか。確かに昨年は反対しました。しかし1年間会長や役員の活動を見てきて、確かに積極的であることを評価します。良くやっておられると思います。今年再提案されたのはやはり必要なのだろうと思いました。復活する機会は重要です。昨年は我々は品位を持ってやっているので、懲罰という書き方は同窓会にはそぐわないのではないかという意味合いの事を言わせて頂きました。同窓会はみんなで学生を援助したり、お互い学び合い苦しみを分かち合う友達の会です。除名することができるということはあっても、復活は救いではないかと思います。それを入れてからもう一度出して頂けたらと思います。

【重田】 復活規定を付けて再提出ということですね。

【横手】 私の意見ですからそうしろと言ってる訳ではないですよ。私個人としてはやはり、友達が減ることはつらい思いです。お互い苦労してきた経過があり、今でも国家試験の夢を見ることがあります。苦労を共にした友達がもし除名されるとなると非常に苦しい心情です。

【重田】 理事会でも全く同じ意見が出ました。同窓会で考えていくと難しくなります。社会では懲罰規定が

あるのは常識です。しかし、同窓会は別のものですね、仲間なんです。みんなで良くなろうという集団ですよね。だからその中の懲罰という意味ではありません。むしろ社会的に罰を受けねばならぬ人がいる場合、その事に対して我々組織としての反応をどう示すかという意味しかないです。勘違いをしてある方がありますが、例えば、会費を出さないから除名されるのではないか、ということはありませんしそういう会ではありません。そういう規則も作ってないしそういう仲間ではありません。自分達の規則を守らないから懲罰にはめるということではないのです。社会的に問題が起こることがあります。そういうことに関して我々が反応しないとその組織は一体なんだということになります。医師会でも同様です。何故医師会は罰を与えないのだと。それと同じような意味合いがあるというのが理事会の結論です。そういうところでご理解頂きたいと思うのです。

【横手】 社会的に罪を犯した人は社会的な罰を受けると思います。それが民主主義社会であり、法律であり、我々が生活を営む上で規律から外れる者は常に罰を受けます。昨年同じ話をしましたがその罰が、確かに法的には罪であるが、人間的に見た時にそれを支えなければならないという思いがある時、同窓会が支えなければならない時もあるのではないか、社会的には確かに悪い、これは法的には罪だ、しかし同窓会としては支えなければいけないという事もあるのではないかと思うのですが。

【松本】 悪むケースは懲罰には値しないだらうと思います。それとあなたが評議員でいる限りはその人は守ってもらえるのではないでしょうか。討議に上がってこないと判らない内容ではありますが、我々の中にきりとまとった部分、懲罰という言葉が悪ければ除名規定でもいいのではないかなと思います。確かに懲罰は余りにも厳しいですからそういう形で何かあって、しかも必ず復権はあるという項目を入れて対応させて頂いたらどうかなと思うのですが納得して頂けないでしょうか。

【横手】 内容的には理解出来ます。

【重田】 大事なことなので手を挙げて頂いて採決に移りたいと思いますが・・・。

【福岡支部：詠田】 福岡支部でこの事が出た時、福岡大学の有信会はどうなっているのか質問をしました。医学部でどうのこうのと決めて、有信会がまず福大にはあるので、その中の除名項目、復権等統一した方がいいのではないかと提案して、支部では調べましょうということでそのままになっているのですが、そういう方法もあるのではないかでしょうか？

【重田】 基本的スタンスを説明しますと、我々の同窓会は有信会とは全く別です。有信会が右でも我々は左です。福岡大学の卒業生ではあります。医学部は無関係のスタンスで活動しています。

【詠田】 医学部同窓会を除名になったとしても、福岡

大学医学部の同窓生であることは変わらない訳ですよね。

【重田】当然です。卒業したとか同窓であるという事は何もかわりません。

【詠田】医学部の同窓会だけを除名になるということですね。

【重田】そうです。この会は社会性がありますのでこの会則にのっとったこの会からは除名されるということです。

【詠田】福大の有信会についてはどうなのでしょうか

【高木会長】有信会には除名規定があります。懲罰、除名とかいう前にこの規則は善意で集まってみんなの好意で結集する集団です。ですから非常に強くなるし、脆弱にもなります。一つの悪が100の善を駆逐する事も世の中にはたくさんあります。2千人、将来4千人になっていく人達を守る為に規則を作らないといけないと思います。これは魔女狩りの法律ではない。小さな社会的悪から皆さんを守るために大事なガード、セルフガードだという風に懲罰規定を解釈することが同窓会の本当の考え方ではないかと思います。

【詠田】医学部と有信会がどうとかではなく、まず一つの大きな福岡大学という組織ですからそこにある除名規定等の会則がどうなっているのか、有信会がこうだから医学部もという風に提案されないと、突然提案されるから悪い方に解釈される方もあるのではないかと思います。

【重田】そうですね。肝に銘じます。では採決に戻ります。第5章の除名か懲罰かで御意見を伺います。除名の方がいいと思われる方は挙手のお願いします。ありがとうございます。除名規定に変更させて頂きます。復権を入れた方がいいと思われる方、挙手をお願いします。分かりました。過半数を超えておりますので、復権の項目を入れて改正案を作りたいと思います。承認ありがとうございました。

【註】この改正案は平成14年7月6日、第21回総会で承認決定された。

6. 会費の納入及び支部組織のめやすについて・会費の納入状況

松本担当理事説明

【松本】資料にA徴収とありますが、これは開業されている方、固定されて地域におられる方の会費を支部が徴収し本部に納入した状況です。平成13年度の合計の%は75.4%です。平成11年度を見ると87.7%です。11年度は気付かなかったが13年度から気付いて1万円ずつ納めた方もおられます。そうするとその1万円はスライドして11年度に入ります。13年度が75.4%といつてももっと払ってある方がいらっしゃるということです。100%の支部もあります。深く感謝申し上げます。B徴収は本部が徴収している移動の多い方です。合計で56.7%は移動の多い勤務医としてはいい線行っています。それを11年度に繰り上げま

すと75.1%ですから、我々の今後の活動予算を膨らませている状態に追いつく形で徴収出来ております。池田事務局長からお願ひがありましたが、出来るだけ1月までに納入をお願いしたい。2月に本部から督促を出しますということですので各支部の会計の方にふれておいて下さい。

支部の条件についてですが、会費徴収に当たって丁度区切りの3年が経ちました。3年間支部で頑張って欲しいという会長の意向がありました。皆さんから多大な貢献を頂きましたが、どうしても地域性や帰属意識があり、ままならない地区もあるようです。支部長自身辛くて活動が出来ない、難しいという所もあります。また上手くいっている支部とそうでない支部があります。先程説明致しましたが、支部長が徴収のお願いをしていない所もある。お願ひはしているが自分で徴収せず、各個人が本部に払っている所もある。100%の支部は通信費だけでも大変ですし、支部で賄われる訳ですから多大な貢献に対して何らかの還元という形をとることにより、支部活動を益々盛んにして頂きたいと考えています。還元という意味で20%程度を支部活動援助費としてお返しするというのが理事会の意見です。条件という言葉があまりにもきついので目安でいいのではということで改正案を作りました。

【重田】このことに関する3年目を迎える今後どうするかということで理事会で検討しました結論が、A徴収は引き続きやれる支部にはお願ひする。支部で徴収してある支部にはなにがしかの差を付ける。それが20%という数字です。支部長さんの意見を伺いたいと思います。

【権藤福岡支部長】資料のとおり、福岡支部は80%、90%と高い率です。福岡支部を7つの区に分けて徴収しており、区担当の先生が働いて頂いたお陰で高い納入率を上げることが出来ております。非常に協力的ですので福岡支部においてはこの方法が一番いいのではないかと考えます。ただ残念な点は何処でも同じでしょうが、会費全額未納者が福岡支部にもいらっしゃいます。福大という名の刊行物を送ってくれるなど言われる方もおられます。その為100%という訳にはいかないでしょうが、それに近い数字は上げることが出来ると思います。13年度に納入しても未納年度にスライドされることも段々理解されてきましたのでこのまま行くのではと思っています。

【坂本北九州支部長】2年前会費を払うことは当たり前だという考え方でカードの提案をさせて頂きましたが、最初はいい考えだと意見が多くあったのですが、カードは嫌だと言う方もおられ、振込用紙が届かなかった為徴収率が少し減りました。大人の集団として、催促する事にためらいがあり、クールな集め方もいいかなと思っていますが、やはり声を掛け、顔を会わせて集めていく関係も大切なと思っています。カードにしたから自動的に集まるという理想もありますが、声かけすることも支部役員の仕事であろうし、付き合いが深まる一因

でもあります。北九州は広域型ですので事務の方から一括してカードのお願いをしてきましたが、直方、田川は担当者を決め、それぞれの地域で集まつた時会費を含めて支部方針の話をして貰う様にしています。会費も来年はもっと上がると思います。

【重田】20%の事に関してはいかがでしょう？

【坂本】皆さん努力して集めてありますので、その努力に報いる事だらうと思います。本部としてはかなりの金額だらうと思いますが、支部としてはその会費を生かして有効利用させて頂きたいと思っています。

【権藤】年に3～4回の講演会を行っております。これだけの人にお願いするのに、電話連絡、各区の会合を何度もやっております。もし、本部からその様な援助があれば非常に役に立ちますし、支部活動も益々活発になること間違いありませんので、私としては非常に嬉しいと考えております。

【馬郡嘉飯山支部長】私共の100%は規模も小さいし、自動引き落としですでの可能かと思います。20%還元は私からすれば要らないと思います。

【津村筑後支部長】例年100%で会長から喜ばれています。このままで行かせて頂きます。20%還元大歓迎です。宜しくお願ひします。

【権藤筑紫支部長】一応葉書を出し、会費の徴収が出来ない人に関しては、後で電話したり催促したりの連絡はしていません。声掛けする意欲が低下しております、意欲を上げたいと思っておりますがその辺も宜しくお願ひします。20%還元はいいと思います。

【福岡佐賀支部長】あまり熱心にやっていない割にはいいなあと思っております。20%還元も大歓迎です。

【豊村佐世保支部長】小さい支部ですし、自ら言い出して支部を作りましたのでこれからも頑張りたいと思います。20%還元は遠慮してもいいかな。

【魚返熊本支部長】年の始めに葉書で案内します。未納一覧表を本部から送って頂き累計表を貼って、私のコメントを付けて52名に送りますが、返事は殆どありません。52名中福大で研修して開業した人が12名です。この12名は思い入れがありますので返事はあります。後は福大の卒業だが医局、大学院は違うから、福大の同窓会は仲良しクラブでいいとはっきり言われる方もおり、2回丁寧な手紙を出しますが、何も返事がない方にはそれ以上言えないのかなと思っています。事務費は支部会を開いた時の御祝い金と講師料を本部から頂いて何とか回っている状態です。2回案内を出し、次に支部の年会費5千円の徴収が言えませんでしたので1ヶ月後に出したのですが、それだけみんなからの返事が期待出来ない状態です。私の努力が足りないのでしょうが、どうしたらいいのでしょうか？

【重田】A徴収をするかB徴収に移るかの選択の時期だと思います。本部の方からはこうして下さいとは申しませんので、B徴収で60%行くこともありますので、それの方が無難かもしれません。

【魚返】あと1年頑張ってみます。20%還元につきましては頂ける程の努力はしていないのですが、A徴収することにより支部財政の立て直しも出来るし、決まったことなら頂きたいと思います。

【大分支部：中村】大分の100%を維持できているのも偏に鬼木先生の努力の賜です。20%についてですが、鬼木先生の通信費に充てていただくと報われると思います。

【野田宮崎支部長】昨年より頑張っているつもりです。九州の中では一番遠い宮崎ですので、地方に行くと福大への帰属意識は薄れていきます。100%は無理ですが、可能な限り集めて行きたいと思っております。20%については本部の財政が可能なら有難いと思っております。

【山下鹿児島支部長】会費の徴収に関して、AなのかBなのか分からぬ状態です。A会員には本部から送ってくる各個人の納入状況を貼って、支部長から本人に毎年送っています。本来のA徴収の形がとれないのが現状です。ただ一方鹿児島の中の支部会費一円はカードで引き落としですでの高い徴収率ですが、本部に対しての同窓会費ということに、みんなで集めることに抵抗を持っています。みんなの分を集めて支部長が納入する事が出来ませんので、各個人がしっかりととした考へでやりましょうという結論になり、私が毎年一月には「納めましたか」という文章を各人に配布しています。20%還元をどうするかについてですが、これについてどういう事なのかと思うのです。還元が無い人も同窓会員です、支部で集めないから貰えないから同窓会員ではないということは無いでしょう。ですから考へ方が非常に複雑です。同窓会員ではなくなるのかな？私達はそういう恩恵に与らないのかなということも出来ます。必ずしも同じような意識の元で全てが同一規格でないといけないのかなという考へもあります。だけどなんとか参加したい。自分達は同窓会員である。盛り上げていきたい。いろいろな形で他にも出来ないかと考えている個人もいるわけです。それをがんじがらめにして、例えばこの資料のA徴収には長崎が書いてありませんね、何故書いてないのかな？

【重田】長崎支部では支部徴収を行っていないのでB徴収にしている。本部から振込用紙を送り60%くらい集まっている。

【山下】そういう考へから行くとうちも同じではないかと思うのです。そうすると同窓会員でなくなるような気がする。そういうことをしまえば自分達で自分達の首を絞めていくばかりのような気がします。もう少し寛大な気持ちになって100%全部集まることは不可能な訳ですから、できるだけ沢山の方の賛同を得て集めて行くことが同窓会の形ですから当然のことでしょうが、現実問題としてあるわけです。20%還元のことですが、支部会費を別に徴収しているからそれから十分に文書通信費が出ますので問題でなく、還元が

ないとやっていけないことはありません。

【重田】分かりました。一応一通り支部の御意見をお聞きしましたので、理事会からの提案としましては「今後とも年会費の徴収は続けていきたい。A, B徴収の形は残していくべきだ。A徴収支部に関しては20%の支部活動費を還元したい。」という提案になります。御意見を一応お聞きましたが、最後に山下先生が言わされたことが、何時も理事会でも議論になります。そのことで説明が出来るとしたら、支部は全国にあり、それぞれ地域性や独自性がありますので一律にと言ふつもりはありません。支部の独自性でやって頂きたいと思います。しかし全体像を見るとある種の基準を決めておかないと同窓会の活動が成り立たない部分がある事をご理解頂いてこの提案をさせて頂いています。

【福岡支部：増田】福岡支部で長年会計担当をして、各区の担当者に年会費徴収の努力をしてきました。支部の活動に対して20%の援助をするということでですが、もともと本来年会費1万円いるということで集めている訳ですから、20%のバックをするならばもともと8千円集まればいいじゃないか、20%も援助する余裕があるのか。僕はお金を集めてない人から年会費も支部会費も含めて出して下さいとお願いしている立場ですから、集めている側から言えば出している人は8千円してくれと私なら言います。集めている方から言えば1万円は本部が要ると言うことで予算が決まっているわけですから、それをバックすることはまあ報償費で考えるならばそれは構わないと思います。

【松本】どうしても頑張っておられる支部とそうでない支部に全く差を付けないでいいのか、という問題が1つあります。支部で集めるにしても電話代、封書代という通信費がかかります。これを本部から1人1人に出しますとかなりの額になります。B徴収よりもA徴収の方が事務は楽になり経費もかかりません。そういう物を還元して頂くという名目です。還元の金額は別として、還元があることで支部は80%を90%に近づけよう努力をなさるとまた、通信費や、会合費の予備費としても使って頂けることも出来ますし、そういう事を含めて出来るだけA徴収にして頂きたいことがあります。もう一つは予算も厳しい部分があります。今の勢いで行けば毎年100人ずつ卒業生が増えて年会費も毎年増える訳です。順調に滑り出したこの会費も今のペースで行けば徴収率も上がって来ると思います。それと同時に執行している予算の方は、これから先極端にどんどん伸びる予定はありません。収入と支出の帳尻を合わせなければいけない部分があり、8千万の財テクがあるので運用は可能です。歩合が変わる時期が将来またあるかもしれません。そういうことも考えて貯蓄經營する為の同窓会ではありませんので、生き金として使って行きたい。支部活動を盛んにするための支援援助としての気持ちをご理解頂いたい。実際支部の皆さんに聞かれますと「ありがたい」

と言う支部も多いので、せっかく集めたのにという気持ちもありましょうがご理解頂きたいと思っております。

【中川】何故納得出来ないかという背景は、同窓会活動はボランティア精神でやっている訳です。何も見返りがないけれど会費を払っていると、それに対して通信費を出しているというボランティアの精神に対して、20%と明文化する事が心情的に納得できないと言うことが問題の本質であると思います。私の個人的意見とすれば、これは会長及び理事会の裁量に任せるという形にして20%と明文化はしない方がいいのではないかと思います。8千万円の財テクがあるという事が監査制度も確立すべきだと思います。

【重田】社会的に言われている監査制度、予算のチェックは当たり前にやっています。同窓会とは何かというと支部活動が全てである、支部活動を活発にやって頂かなくてはならない。支部で活動をし、意見を上げて貰い大学に反映するというのが本来の姿です。ある種の同窓会活動の一つの形として支部の方が自分達でお金集めをすることは、かなりのエネルギーが要ります。そのエネルギーがある所は、支部としての活動をしていると我々は見るわけです。A徴収とはそういう意味です。我々が紙一つ送って集めていれば、支部活動をして、しないは何もみえません。やはり支部の方が足を運んで活動していく中から人間関係が出来ると思います。みなさんはそこはお解りだと思いますが、そういう意味のA徴収で、2千円の還元はやっぱり同窓会の事業費であり支部活動費です。これはもっとあってもいいのではないかと思うくらい大事なもので。我々本部の活動だけが同窓会活動ではない、皆さんが支部で活動を活発にやって貰うためのお金だと僕は思っています。少し皆さんとのご意見にずれがあるのかもしれません、僕はそう思っていますし本部の意見も同じです。

【佐世保支部：久保】20%という数字が何処からでたのか分かりませんが、事業費として返されるというのなら曖昧にしてこここの部分は一部としたら如何ですか。20%と決めてしまうと、予算がきちきちになってしまった時大変にならぬか？

【重田】成る程。この20%の根拠は何もない、これ位なら本部の予算がきつくならない程度の数字だという所です。数字を明確にせず、一部とさせて貰うと本部としてはありがたいです。

【松本】追加発言ですが、財務としては非常にありがたいです。一部還元があるという表現で、支部活動支援費として賛同して頂けるかどうか今日決をとって頂いていいでしょうか？

【重田】究極はA徴収をして頂いた支部を支部活動をしてると本部が見る。そのことに対する活動費の援助だということになります。

【星子】3年間A, B徴収をして、今後はA徴収に切り替えて行くとお聞きしていましたが？

【重田】本部の希望としてはそうでした。

【星子】それでは中国、四国、中部地方はA徴収はしないことになるのですか？

【重田】そうです。A徴収から外れます。しかしA徴収の申込があればA徴収に入ります。

【星子】例えば、還元分に関して、もし8掛けで出しますと言ひ方されたらどうなるのですか？

【松本】事務的にはそれでいいのです。同じことですから、かえって送つたり、送られなかつたりするよりも計算して35万円の8割を送りましたという様にして頂いて構いません。

【星子】そうしたら、他の県、長崎を含めて私共もA徴収よりもB徴収の方がいいのですが、同じお金を払つてA徴収の人達だけはお金を貰う、B徴収は支部会があるにも拘わらずお金が下りない。というのは他の人達にもきちんと納得できる方法で表現しておかないとトラブルの原因になって退会をしたいという方が出てくるのではないかと思います。

【松本】毎年話をしてきましたし、会報にも書いてしております。会長の意向で支部の力が何よりも頼りなのだということで支部を育成する為、支部を支援する為の浄財であって同窓会費が8千円という理解で構わないです。各支部でそういう捉え方をされて構わないです。支部というのは本部があつて支部が有る訳です。地域の福大卒の集いという訳ではない。基本的構造として本部と支部という関係が存在しなければならない。それに内付けしていく時には、会費を支部で集めて本部へ送つて頂くと本部が助かるということも骨組みの一つです。それが出来る所と出来ない所がある、そうすればそこに差が出来てしまします。ドンドン支部が出来上がっていく糧に、励みにでもなればそれが支部への支援という意味合いをもつて還元したいということです。

【星子】帰つて支部に話したいと思いますが、支部会の中には支部会費は払つても本部に納めたくないという方がおられます。

【松本】それは支部の体をなしていないですよ、それは卒業生だけが集まつた集いなんですよ。

【山下】20%還元はもう少し議論した方がいいのではないでしょうか？支部を例えれば4人でも5人でも作ろうと思えば作れるでしょうが、地理的に作りたくても出来ない所もあるかもしれません。そういう所も一まとめにしてあたな達はB徴収だから1万円、こっちは支部が出来ているから8千円というのももう少し説明等をしておかなくてはおかしな事になっていきそうな気がします。ですからもう少し、煮詰めて、議論して実際20%が妥当なのかどうかとか10%位でいいのかとか、割合を決めずに他の方法で援助費みたいのものを出すとか、いろいろな事を考えて方がいいのではないかと思います。

【久保】B徴収とは1万円、A会員の方も入っているのですか？開業医の方も？

【松本】支部のない北海道や、東北で開業されている方はそうです。

【重田】支部で年会費を集める所を、支部と認めようと極言したかったわけです。しかしそれでは無理だろうということで、Bの所も作ったわけです。きつい言い方をすればそういうことになります。やはり同窓会の年会費を支部の方でを集めて頂きたいというのが本質論です。本部から紙切れ1枚で送りたくない、支部の手を通してどなたが払つたか払つてないか自分達で請求して頂きたい、本部の請求ではなくて、それが支部ではないでしょうか？という問い合わせです。

【中川】将来10年、20年のスパンで考えたらこの形態を続けることは非常に、難しいと思います。殆どの所がB徴収になるであろうし、A徴収の方に特に頑張つて貢っているという意識を持った捉え方の方が合理的だと思います。A徴収の形態がこのままドンドン上手く行くことはむしろ逆だと思います。

【重田】実際数字をみて頂いて分かる様にB徴収はものすごくいいです。差があまりないです。実際A徴収の意味があるのかなとは思つてゐるのですが、それでは支部の足腰が立たないのではないか、もう一頑張りして頂いた方がいいのではないかと思います。

【中川】反対しているわけではありません。実際問題大変なご苦労をされていると思いますし、当然A徴収されている支部には特に還元すべきだと思います。ただそれを明文化した時に自分達で作ったルールに縛られてしまつて支部自体の形態が崩れてきた時にどういう風に対応するかという問題がすぐ起つてくると思います。ですから、そういうルールを作るとしても一時的なものとして作った方がいいと思います。もう一つ通信費を上げられていますが、それで20%が要るかどうかの根拠を実際に計算して出して議論すべきだと思います。

【魚返】本質論になつてしまふのですが、Aを引き受けたのは支部活動の一環として、来ない人は来ない、払わない人は払わない、何度言ってもダメなんです。かえつて非難されるだけです。「何が面白くて支部長やらしようとや」と。殴つてやりたいヤツが何人かいります。実際そういう人が先輩の中にいます。金回りが良さそうなことを言うけど金は出さない、文句は言うけど顔は出さない。僕らの支部の仕事は、僕の理想論ですが、原則は本部からのB徴収にして、支部は本部から送つてくる未納者一覧表をみて未納者に電話をする、本部とのしがらみを話して、良かったら協力して下さいという啓蒙的な仕事が僕らの仕事だと思います。A徴収で「おまえんとこ足らんぞ、はよもうちょっと集めろ」とプレッシャーを掛けられても意欲の低下は來つてくるし、「やりたくねー、疲れてきたなー」と思うと困りますが、情熱がある限りやろうと引き受けたわけです。それ以外は何も出来ないわけです。

【重田】まさしく、その通りだろうと思います。実際は支部徴収の制度と本部徴収の制度を上手くかみ合さ

ないといけないだろうと思いますが、まだ具体的にどうしたらしいのか我々も分からぬ状態です。原理原則論からいえば我々が言ったAとBの分け方があると思います。その中で一つの過程としてAとBと分けてみましょうか、2、3年後これでは無理だからこうしましょうかという話にもなると思います。福岡支部の様に活動費がありますのでこれで行けますという所もあります。支部の状況もありますので、再提案するのもいいと思います。

【中川】理事会の本音は、A徴収で大変ご苦労されている支部にどういう風に還元するかということだと思います。だから非常に苦労されている支部長の方だけを慰労するような形のイベントを考えてもいいし、会長を始め重田先生もその辺りが本心だからむしろ苦労している支部長さんを集めて一杯飲んで貰うとかの方がいいのではないかと思います。

【重田】各支部がどうのこうのではなく、こうやってA徴収をして同窓会活動をしている所があるその現実を見て欲しいのです。頭あわせをする気はいまのところありません。しかし将来的にはそれも一つの希望かなと思います。何らかの形でA徴収の支部には還元させて頂くということで再提案させて頂くことによろしいでしょうか。A徴収支部には何らかの形で還元させていただくということで再提案させて頂きます。

【松本】最後になりましたが、同窓会が誇るすばらしい同窓会費の徴収率です。財務担当といたしまして改めて深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

7. 決算評議員会省略の件 承認される

8. 第11期会長推薦

高木忠博氏（現会長）が満場一致で第11期会長に推薦された。

【第11期会長に推薦された高木忠博氏の挨拶】

第11期の同窓会会長をさせて頂きます。私、今年で丁度節目の5期10年です。10年を振り返りまして私の気持ちとこれから先、高木という人間がどういふ風に同窓会を進めていくのかお話し申します。

今、同窓会というユニオンの前に広がる広い耕地を耕す道具がやっと揃った、基礎が出来上がったのではないかと考えています。今の様に沢山の支部が出来ましたし、会費の徴収、予算等10年掛かって基礎が出来ました。それはここにおられる理事、評議員の方々の努力の賜と思っております。この場を借りまして皆さんに心から感謝申し上げます。この高木を支えて下さいまして本当にありがとうございました。この10年間の中で同窓会の中から教授が出たことの意味がどんなに大きなことかしみじみと感じました。以前全国の同窓会会长と話した時、仲間から教授が出たら必ず変わると聞いておりましたが、確かに同窓会のパワーを發揮し始めたと感じました。林先生、朔先生が大学内に

いることで、大学内の情報が即時に入ってきて即応する体制が身に付きました。昔は大学内で何が起こっているのか解りませんでした。それが瞬時に解り、瞬時に対応できる足腰の強い同窓会が着々と出来ていると思います。これから先、仲間から教授や助教授を次々に出し、その仲間達が福岡大学医学部に対する愛情と、責任を十分に自覚して動いて貰う様な人材を作っていくことが同窓会会長の大きな仕事だし、同窓会の大きな仕事だと思っています。それから色々なことが枝葉の様に分かれていき、色々な果実が実っていくと考えています。同窓会とは？と考えると自分達のアイデンティティーとエゴイズムだと思います。このエゴイズムという言葉は非常に嫌な言葉ではありますが、「誇り」や「プライド」は究極考えると一つのエゴイズムだと思います。世間に受け入れられるエゴイズムは世の中にはあると思います。旧帝国大学の一つの世界でみている力はエゴイズムであります。そして彼らがしていることは沢山のプロフェッサーを出していることです。世間に認められる一人前になった同窓会を作る為には避けて通れないと思います。それが私の任期中に出来る大きな課題として頑張っていくつもりです。皆さんの力と皆さんのがんばり活動で時間を割いて会議に出てくる、その中から何か1つの新しい組織の強さ、アイデンティティー、世間にきちんと認められるエゴイズムを作っていくことが出来、同窓会をきちんとした形に変えていくと思っています。これから益々頑張って、出来るだけの活動をし同窓会の責任者としてやっていきます。先程出てきた有信会も今年創立68周年を迎え、初めてユニバーシティを卒業した人達だけで運営される同窓会になりました。医学部を代表して私も理事になっています。新しく生まれ変わった福大の有信会にも出来るだけ参加し、医学部の在り方を他の学部にもアピールしていくこうと思っておりますので、宜しくお願いします。

9. 総会案内

総会担当 田中伸之介氏 説明

第22回 鳥帽子会総会予告

とき 平成15年7月12日(土)
ところ 西鉄グランドホテル
(福岡市)

幹事 6回生、16回生

平成14年度同窓会研究奨励賞選考報告

選考委員長 朔 啓二郎（1回生）



朔 委員長

同窓会研究奨励賞選考委員会を6月5日、医学部会議室にて開催しました。今年で6回目になります。会長より再度、選考委員長を拝命致しましたので、今年から2年間、次の6名の先生方に選考委員を委嘱しました。

1回生、林（眼科）、3回生、辻（泌尿器）、雪竹（総合周産期母子医療センター）、宇都宮（放射線）、櫻木（麻酔）、7回生、山本（脳外）先生です。

今年からは、さらに公正を期するため投票による採決方法に変えました。同窓会研究奨励賞は研究計画及び発表論文で応募できますが、同窓会の浄財をいかに有効に若手研究者に還元できるかを主な目的としたものです。以前より同窓会執行部に賞金の増額を要求してきました

が、今年は昨年同様150万円の範囲での提示がありました。

5件の応募（4件が論文審査、1件が研究計画）に対し、賞金100万円を筑紫病院第一内科医員、小川正浩君（14回生、心房再分極のばらつきを表す電気生理学的指標の研究）、賞金50万円を病理学研究生の西尾淳君〔18回生、human synovial sarcoma細胞株の開発〕に授与することを決定しました。賞であるなら、賞金は少なくて良いだろうとの意見がいつも出るのですが、Young Investigator Awardですので、それなりの研究にはちゃんと評価が必要だと思います。今年は特に最優秀賞が100万円とかなりメジャーな賞にランクアップしていますが、さらに増額を要求していくつもりです。

本賞は、医学研究をすすめていって欲しいという先輩達の祈りや願いの中で設立されたものですし、私達執行部も同窓会の一大事業と考えています。来年も多数の応募をお待ちします。

平成14年度研究奨励賞受賞の言葉

心房再分極のばらつきを表す電気生理学的新指標： 各種心房ペーシングの電気生理学的效果の比較（論文）

福岡大学筑紫病院内科第一 医員

小川 正浩（14回生）



この度は、同窓会研究奨励賞を授与頂き、誠に有り難うございます。

私は、平成3年福岡大学医学部を卒業し、第二内科に入局、荒川規矩男教授・朔啓二郎教授のもと臨床循環器学・臨床研究の研鑽を積んでまいりました。現在福岡大学筑紫病院内科第一に勤務し、広木忠行教授の御指導をうけ

ております。この研究は、臨床心臓電気生理学的検査により得られる心房受攻性（心房細動の発生しやすさ）の新しい指標（Atrial Recovery Time Dispersion）を提唱し、各種心房ペーシングがいかに心房細動の発生予防に寄与するかを解明したものです。

今後も循環器学の臨床・研究に邁進する所存です。皆様の御指導・御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

Establishment of a new human synovial sarcoma cell line, FU-SY-1, that expresses c-Met receptor and its ligand hepatocyte growth factor (論文)

福岡大学医学部病理学 研究生 西尾 淳 (18回生)



この度は、平成14年度同窓会研究奨励賞を受賞させて頂き、誠に有難うございました。福岡大学医学部同窓会の皆様に深くお礼申し上げます。

今回の研究は、滑膜肉腫の細胞株を樹立し、その細胞株の特徴を形態学及び細胞遺伝学的に調べたものであります(Int J Oncol 2002; 21: 17-23)。幸いにも反響が大きく、Memorial Sloan-

Kettering Cancer CenterやUniversity Medical Center Nijmegenの研究者より細胞株の提供の申し出を受けております。今後、この賞を励みにさらなる研究をがんばっていきたいと思います。

最後になりますが、研究を行う上ですばらしい環境を与えて頂いた菊池教授、直接御指導を頂いた岩崎教授、ならびに病理学での研究の機会を頂いた整形外科の内藤教授にこの場をかりて感謝申し上げます。

平成13年度研究奨励賞研究報告

アンジオテンシンIIタイプ2型レセプターはリガンド非依存性にアポトーシスを引き起こすか (論文)

福岡大学病院循環器科 講師 三浦 伸一郎 (11回生)

昨年は、平成13年度研究奨励賞を授与いただき誠に有り難うございました。アメリカ留学より帰国したばかりの私にとって、研究を始めるにあたり非常に有用なものでした。今回の受賞論文は、G蛋白共役型受容体が引き起こす細胞内情報伝達が、それに結合するリガンドではなく、遺伝子レベルによる受容体発現量調節によって支配されていることを初めて明らかにしたものでした (Miura S et al. EMBO J. 2000)。その後、アンジオテンシンIIタイプ2型レセプター (AT2レセプター) のリガンド非依存性の役割が、Jin X-Qらにより報告され (Hypertension. 2002)、追試によても我々の研究が正しいことが証明されました。現在、AT2レセプターが細胞内情報伝達を引き起こす際のAT2レセプター細胞内局在性を検討し、リガンド非依存性にAT2レセプターが細胞膜へ移動する際にアポトーシスが引き起こされることを見出し、さらに検討をしているところです。

また、今後は、AT2レセプターの持つ細胞増殖抑制作用を利用し、虚血性心疾患における冠動脈狭窄の抑制への応用を考えています。まず、動物モデルを用い、冠動脈へのAT2レセプターの遺伝子導入を試みる予定です。

また、受容体機能解析の立場から新たにG蛋白共役型受容体のみでなく、スカベンジャー受容体ファミリーに属する酸化LDL受容体のLox-1やHDL受容体SR-BIの研究も大学院生とともに開始しています。

さらに、臨床研究では、HMG-CoA還元酵素阻害薬 (スタチン) の多面的効果について検討し、スタチンの虚血性心疾患患者における側副血行路発達作用や心肥大抑制効果を学会で発表しました。また、スタチンの冠動脈狭窄抑制作用におけるサイトカインやケモカインの役割についても検討中です。

今回の受賞は、これらの研究を始めるにあたり非常に励みとなり、今後は、これらの成果が少しでも医学の進歩に貢献できるように努力していきたいと思っております。

肝線維化における アンジオテンシンII受容体拮抗剤の影響について（計画）

福岡大学医学部内科学第三 助手 岩田 郁（13回生）

アンジオテンシンIIのレセプターには、相反する作用を有するレセプター1とレセプター2があります。特にタイプ2レセプターは、心臓や腎臓への臓器保護作用が、実験的にも臨床的にも報告されています。

腎臓や肝臓の慢性的な炎症は線維化を来します。この線維化にはアンジオテンシンIIが関与しており、アンジオテンシンII変換阻害剤やアンジオテンシンIIレセプター1拮抗剤の投与により線維化に関与しているTGF β を抑制することが報告されていますが、以下の疾患についての研究はなされていません。

肥満、高脂血症、糖尿病、動脈硬化症には、脂肪肝が高率に合併します。この生活習慣病に合併した脂肪肝は飲酒をしなければ肝硬変に至ることは無いと言われていました。1980年にアルコール過剰摂取がないにも関わらずアルコール性の変化と類似した肝組織像を特徴とした疾患概念ができました。それがNonalcoholic steatohepatitis (NASH) であり、欧米で増加傾向の疾患です。

この疾患は、原因がつかめておらず20%前

後が10年で肝硬変に至ると言われています。治療に関しても生活習慣病のコントロールのみでは改善せず新たな治療が模索されています。

NASHの動物モデルの1つにコリン欠乏食ラットがあります。ラットにコリン欠乏食を長期与えると脂肪肝を来しその後、肝の線維化が起こり、NASHに類似した経過を示します。私はこのラットを用いてアンジオテンシンII受容体拮抗剤投与による線維化の影響を調べました。コリン欠乏食ラットを生理食塩水群(control)、AT1受容体拮抗剤投与群、AT2受容体拮抗剤投与群の計3群に分け、3ヶ月飼育を行い、ラットの肝を取り出し、肝臓内のTGF β 1とコラーゲンに含まれるヒドロキシプロリンを測定しました。

図に示す様に肝組織内のTGF β 1ヒドロキシプロリンは、AT1受容体拮抗剤投与(AT1R blocker)群が他の2群と比較して有意に抑制されました。

今回の実験にて、AT1受容体拮抗剤がNASHの肝線維化抑制に対し効果が期待できることが示唆されました。

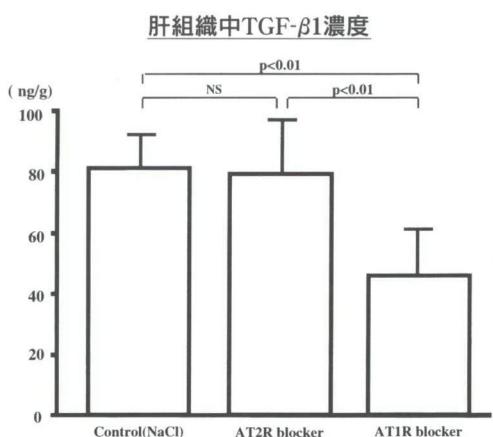


図1

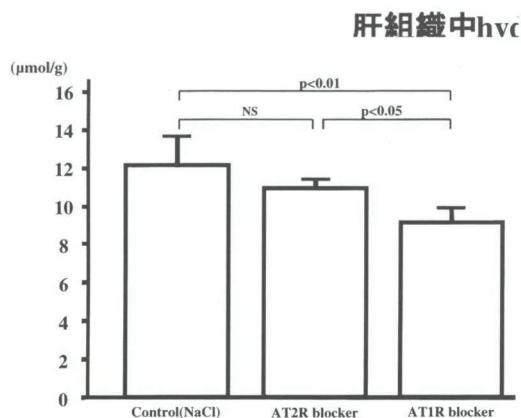


図2

平成15年度 福岡大学医学部同窓会 研究奨励賞募集要項

対象：正会員及び準会員で、40才未満の者または学部卒業後10年未満の者（本会会費完納を条件とする）

研究課題：医学に関するものであれば自由（医学に関する研究計画又は研究論文）

申請方法：所定の申請書による（支部長推薦を要す）

提出先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会事務局
Tel 092-865-6353（直通） 内線3032 Fax 092-865-9484

締切：平成15年4月30日

賞状・賞金：奨励賞（優秀論文賞を含む）5件以内

発表及び表彰：平成15年7月、第22回同窓会総会席上

その他

- ①受賞者は研究報告書を提出する事（研究は2年以内に終了）
- ②受賞者は研究成果を総会で口演するか同窓会会報に発表する事
- ③申請書は同窓会事務局に請求の事
- ④申請書はワープロで記載し、過去の研究業績（原著、著書、症例報告、学会発表）、研究の独創性・重要性を十分に書く事

研究奨励賞暦年受賞者名簿

年度	姓 名	回	研 究 課 題	備 考
14	小川 正浩	14	心房再分極のばらつきを表す電気生理学的新指標：各種心房ペーシングの電気生理学的効果の比較（論文）	2002年日本心電学会学術奨励賞最優秀賞受賞
14	西尾 淳	18	Establishment of a new human synovial sarcoma cell line, FU-SY-1, that expresses c-Met receptor and its ligand hepatocyte growth factor (論文)	Jnt. J. Oncology, 2002年印刷
13	三浦 伸一郎	11	アンジオテンシンⅡタイプ2型レセプターはリガンド非依存性にアポトーシスを引き起こすか（論文）	2001年荒川賞受賞, EMBO J. 2000年印刷
13	岩田 郁	13	肝線維化におけるアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤の影響について（計画）	
12	上原 吉就	16	Increased Chymase Activity in Internal Thoracic Artery of Patients with Hypercholesterolemia (高脂血症患者における内胸動脈キマーゼ活性の増加) [論文]	Hypertension 2000年印刷 Cardiovasc Res. 2002年印刷
12	内田 博子	17	眼内血管新生抑制作用における接着因子とサイトカインのネットワークの解明（網膜色素上皮細胞の代謝との関係について）[計画]	2001年第3回福岡大学医学会賞金賞受賞
12	案浦 清高	13	造影MRIによる転移性脳腫瘍検出能の検討—Magnetization transfer contrast(MT)pulseを加えた造影剤通常量投与T1強調像と造影FLAIRの有用性について[論文]	
12	井上 貴仁	15	ヒトでんかんと同じ遺伝子異常を持つモデル動物の作成[計画]	
12	原賀 勇壮	16	バンコマイシン耐性MRSAにおけるバンコマイシンとβラクタム系抗生剤の併用の危険性 [論文]	New England Journal of Medicine 1999年印刷
11	富田 能弘	14	CEA特異的なキメラレセプター遺伝子を用いた癌の遺伝子治療：T細胞の癌細胞への効果的集積法および活性化の検討	
11	吉武 佐枝子	14	ヘリコバクター・ピロリ関連疾患の感受性および抵抗性に関するHLa class II遺伝子の検討	
11	牧野 郁子	15	アドレノメジュレンの至急胎盤循環における役割について	
10	原賀 勇壮	16	バンコマイシン耐性MRSAの感染経路と耐性変化に関する研究	2002年第4回福岡大学医学賞銀賞受賞
10	熊谷 浩一郎	7	心房細動に対する高周波カテーテルアブレーションの有効性に関する基礎的・臨床的研究	Circulation 1999年印刷 1994年American College of Cardiology YIA受賞
10	内田 俊毅	10	光感受性物質（ポルフィマーナトリウム、merocyanine540、他）を用いた超音波化学療法による白血病細胞の殺細胞効果について、colonyassayを用いて証明を行う。	Lancet 1999年印刷 Lancet 1997年印刷 1997年日本超音波学会・菊地賞受賞
9	住吉 慶明	9	好感度 <i>in situ</i> ハイブリダイゼーションを確立し、胃リンパ増殖性疾患におけるκ・λ mRNAの検出に応用する。	Gastric cancer 1999年印刷
9	竹山 康章	15	アルコール障害・・・特に肝臓纖維化のメカニズム	
9	山之内 良雄	7	第1相の終末から第2相の開始にかけて高電圧を持つ二相性波形の心室細動における除細動効果	1997年 American Heart Association YIA受賞 Circulation 1999年印刷

激励と歓迎

国試激励会

'02.4.25 木 福新楼

司会 井上 隆則 (のぞみメンタルクリニック院長: 7回生)



司会 井上先生

平成14年4月25日、恒例の福新楼にてM6の国試激励会が行われた。当日の参加は学生62名、OB24名、合計86人であった。

この日は国家試験の合格発表日でもあり、そして、その結果が予想を越えて良かったため会長の挨拶も自信に

満ちた言葉となった。各OBからの激励の言葉も随分と軽快であったと感じた。ただ、M6全体の60%程度の参加だった事が残念である。

国家試験は、各自が努力して合格すれば良いものではない。皆で一丸となって合格を目指して行く事が私立大学である福岡大学医学



松本理事



EBOSHIKAI



部学生が大切にすべき指標である。その為の激励会であるからには全員が参加する事に第一の意義がある。もちろん、参加したからと言って合格するものではないけれども、皆で同じ目標に向かって努力するという意味や、その努力は個人だけの為ではなく全卒業生と在校生の誇りを背負っているという責任感を感じる事によって、決して最後までくじけないという集中力を發揮して欲しいと願うものである。

来年の4月の激励会では彼らの努力の結果が大いに実る事を切に希望するものである。

新入生歓迎会

'02.5.25 金 福新楼

司会 武末 淳 (たけすえ耳鼻咽喉科クリニック院長: 10回生)

平成14年5月25日、福新楼において恒例となりました烏帽子会主宰の新入生歓迎会が行われました。

今回は新入生が入学してから2ヶ月足らずのまだ日の浅い、大学生活にも馴染んでいない時機の開催でしたが、当日は67名の新入生の参加があり、烏帽子会メンバーからも新卒のフレッシュマンドクター数名に参加してもらい、大いに賑わった会となりました。

中には親御さんが本学出身者という2世の新入生も何人かおり、烏帽子会の歴史も第二世代が始まったことを感じさせられました。本学へ入学が決まって七隈にアパート探しに来た時に、普段あまり話しあったことの無かったお父さんが、問わず語りに昔の七隈の様子を話しだしたというエピソードを聞いたりもしました。

この時の二人はきっと親子というより、同窓の先輩後輩といった関係だったのかもしれません。

お開きの前に、昨年に引き続き烏帽子会より去年とは色とエンブレムを変えたオリジナルデザインのTシャツの贈呈があり盛会のうちに1次会を終了しました。

まだ、高校生っぽい初々しさの残る新入生諸君ではありましたが、今年の諸君は一味違った結束力のある学年のようにでした。

1次会の終わった後にはしっかりと2次会の会場を押さえてあり、我々OBも招待されまし



司会 武末先生

た。昔懐かしい舞鶴界隈（昔の所謂親不孝どうり）の板張りの店での2次会は学生時代によく通った懐かしい雰囲気を残していた場所でした。

場所が変わったせいか2次会は皆打ち解けて更に盛り上がり、1次会には参加できなかった幾つかのサークルのメンバーも加わって、親子ほどの年齢差を感じさせない楽しい会話（？）があちこちで繰り広げられていました。今年の諸君とは“4年生になるまで待てないぞ、来年もまた集まろう”ということになって2次会も散会となりました。

惜しむらくは、前回同様学生諸君と接するO



校 歌 齊 唱

B諸氏の顔触れが同じであったため、今後行われる会には新たな多くの鳥帽子会メンバーの方々の参加を切望する次第であります。そのためには、多くの労を負われている事務局への負担を減じて、タイムリーに情報が伝達できる鳥帽子会のメーリングリストなど、新しい情報伝達手段の整備が必要ではないかと感じた次第です。

最後に、毎回、企画・準備に奔走されます、鳥帽子会役員の先生方と、事務局の皆さん、そして新入生歓迎会に参加頂きました方々へ感謝の意を捧げます。



M4 激励会

司会 井上 隆則 (のぞみメンタルクリニック院長：7回生)

平成14年9月6日、第三回目となったM4激励会が、恒例の福新楼で行われた。学生の参加は90名、OBは実に32名が参加予定であった。実際は緊急手術などで急遽来られなかつたOBもいたが、それにしても、こんなに多くのOB参加は初めてであった。

平日の夜7時という難しい時間にも関わらず諸般の事情をクリアして参加して頂いたOBは本当にありがたいものである。多すぎて、皆さん全員に言葉を戴く事が出来なくて困ったものであった。

参加OBが増えると言う事は、こういう激励



先輩と語る

会に初めて出てこられる方が少しづつあるが増えてきたという事もある。いつか、福新楼では、入りきれないほどの参加者で盛り上がりつて、困るくらいになりたいものである。

宴会そのものは、式次第に添って進んでいったが、やはり目玉はM5進級の際に鳥帽子会から贈呈されるオリジナル白衣である。看護婦の戴帽式と同様の意味で、医師となるべき志を再確認して臨床実習に真剣に臨んで欲しいものである。

そして、彼らが二年後に成長して、また福新楼で再会出来るのを楽しみにしたいものである。



医局紹介

筑紫病院耳鼻咽喉科の小さな歴史

福岡大学筑紫病院耳鼻咽喉科 医員 森本健三（19回生）
併任講師 宮城司道（9回生）

福岡大学筑紫病院耳鼻咽喉科は、初代教授の調重昭教授により平成3年1月に開設されました。当時のスタッフは、調教授と山崎恵三講師の2人だけでした。

平成4年5月より池田研医員が加わり、9月には辻田直隆助手と人数は徐々に増加しました。それに伴い、1992年の筑紫病院耳鼻咽喉科年報（NHO）によれば、平成4年の年間外来患者総数は11,150名に、同年の年間手術患者総数は174名と増加したと記されています。残念ながら山崎講師は平成6年2月に退職され、辻田助手も平成6年10月に解剖学教室に行かれました。

初代診療部長である調重昭教授退任の後を受けて、平成8年4月より現在の診療部長（及び現病院長でもある）森園哲夫教授が就任しました。平成14年4月には、宮城司道併任講師、池田宏之助手、以下医員1名、大学院生2名の計6名が揃い、毎日の診療に励んでおります。

外来は月曜日・水曜日・金曜日の週3回、手術日は火曜日・木曜日の週2回あります。外来患者数は平均70数名（新患は平均10数名）です。

診療対象は、頭頸部（良性）腫瘍疾患、一般耳鼻咽喉科疾患です。その疾患は特殊性があるため、耳鼻科を診療科として入院施設を有する病院は極めて限られており、筑紫地区においても例外ではありません。そのため遠く東方は日田地区、西は那珂川地区、北は南区井尻、博多区雜餉隈から紹介されてきます。また、甘木市には週4回当科の医師が出張しており、そこからの紹介患者も増えています。

そういう諸事情と周囲診療所の協力があって、症例数は確実に増加し、平成13年度の月平均の外来初診患者数は107名、入院件数44名（一日平均15名）、手術数も年間200例を突破しました。その手術は原則的に主治医執刀しております。部長をはじめ優秀

な指導医に恵まれ、我々の技量は日毎に向上をみています。特に中耳（アブミ骨を含む）領域の手術は、森園教授の得意とする分野であり、高い技術を保っていると自負しております。

学生教育は、福岡大学病院とは違い、2週間用意されているため、外来診察から手術、その回復過程の観察が習得でき、学生からの評価は高いものを得ています。学生からくる鋭い質問には我々も驚かされることもしばしばです。また我々も週2回朝7時半より耳鼻咽喉科全般に亘る勉強会および手術のカンファレンスを行い、知識の確認と技術の習得を怠っていません。

一方で研究となると、残念ながら研究設備がほとんどないため臨床研究が主体となります。大学院生は研究テーマによっては、福岡大学のアニマルセンターを利用することもあります。

基幹病院の役割として筑紫地区の耳鼻咽喉科開業の先生方とは、互いの病診連携を密にだけでなく、年3回紹介患者を中心に興味ある症例を数例選んで筑紫症例検討会を開催し、コミュニケーションを図る機会としています。

今後ますます地域の基幹病院として期待されるよう、積極的に先生方との交流を図っていく所存です。



会員寄稿

忘れられぬ一言・忘れてはならぬ体験 一卒後20年に寄せて

長谷川耳鼻咽喉科(兵庫) 院長 長谷川 英夫 (5回生)



筆 者

お久しぶりです。姫路市で家業を継いで耳鼻咽喉科医をしている一開業医である。多分私の事を知る人は、この同窓会会報読者の30人の1人にも満たないだろう。

何時も会報を懐かしく拝読させてもらって

いるが、特に教授退任ご挨拶のページは興味深い。既に2年前になるが、朝長先生の文章を読ませていただき、自身の体験も踏まえ、今回卒後20年を機にペンを取った。

先生は名医よりは良医たれと説いておられた。私は1999年5月から9月までの5ヶ月間MRSAによる肺血症を伴った化膿性椎間板炎により入院生活を余儀なくされた。この間の患者体験即ち、裂痛、悪感戦慄の嵐、不安感、その後の被介護の実体験の中で、病院は患者が病と闘う戦場であると知り、患者、病人はいかに弱く苦しい立場であるかを身をもって実感した。また逆に医師の仕事がいかに大変かを思い知った。すなはち精神的に患者と共に感しつつ、正しい治療方針を選択するため常に研鑽を積まねばならない。然し自身はどうであったか。単に親の後ろ姿を見て、医学部の門をたたき、自然に、特に考えることもなく医師に成ってしまった自分を恥じた。(生きて)元気になって復帰できたら、痛みを共感する心を持った謙虚な医者になろうと誓った。幸い回復し仕事を再開し、「医は心である、心豊かな医師は善人である。善人でなければ良医でない。名医よりは良医たれ」という文章を目にし再び意を強くした。これからは(名医は無理?としても)良医をめざそうと。

先生は授業中「お前達!お前達は患者の弱み

につけ込んで仕事をやっていくのだぞ。このことをよく肝に銘じておけ。であるから・・・」とおしゃった事をよく覚えている。忘れられぬ一言である。

学生時代、授業内容よりも諸先生方の何気ない雑談や、怒られた事はよく覚えている。生理学の富田先生の「いつまでも九大の植民地でいいのか。君達の中から教授が出なければ・・・」臨床実習で産直の後、白川先生から感想を聞かれた学友が、ハーハーと言っていると、「君は産んでもらった母親に感謝の気持ちが湧かないのか!留年してすまないと思わないのか!」と顔を真っ赤にして怒られた事。「君は浦島太郎か!国試に受かってしまえば君達だって同じ先生ですからね」。何を答てもぼろくそに言われるので黙っていると「雉も鳴かずば撃たれまい」との小野先生の一言。その他「精神科ではない精神医学なのだ」「窓を開けろ、空気を入れ換えろ!」等々・・・。最近人に怒られることが少なくなりましたが、学生で怒られているうちが花です。患者さんから怒られるようになったら洒落では済みません。

現在、体力も完全に回復し、再び忙しく診療に励んでいる。趣味の登山もスキーもできるようになつた。文科系課目が好きで特に地理と歴史が得意で理数系が不得手であった私を受け入れて下さり、医者にしていただいた母校福岡大学医学部に大変感謝している。ふと卒業生名簿に載っていないかつての学友の顔を思い浮かべ、どうしているのかな~と思いつつ、当時の学部長もつらい決断だったのだと知つた。

国試合格後すぐに関門橋を渡って帰つて来た私にとって、ほとんどの九州での思い出は若い感性を持った学生時代のものと重なり、徐々に美しい思い出になりつつある。少し影の深い顔立ちの患者さんの「目をあつかうとですネ」という言葉を耳にするとつい九州の方ですかと聞

いてしまう。以前は福岡は日本の端というイメージであったのが、最近はアジアの大都市福岡といった感を持つのは私だけだろうか。

長くなりましたが、4回生、5回生、6回生・・・かつて共に学んだ先生方もそろそろ生

活習慣病の予備軍の年齢になろうとしています。私の場合過労とストレスによる免疫能の低下であろうと結論づけられたが、くれぐれもお体を大切に。退任された先生もご苦労様。お元気でまだ現役の先生も荒川先生、牛島先生、池田先生等NHKの健康番組に御出演されているのを見ると嬉しくなります。

最後に同窓会関西支部姫路地区では、4回生の原田先生が精神科・神経・心療内科の開業医としてご盛業であられ、

11回生の磯部先生は姫路で第1の基幹病院である国立姫路病院の麻酔科を支えておられ、同病院で同じく勤務されていた13回生の戸谷先生は今年('02年)1月に麻酔・整形・リハビリ科としてご開業なされました。



長谷川一家

卒後研修について（他大学に行くことは意義があるのか？） －研修1年目を過ぎて考えること－

臨床研修医 Y. S (24回生)



筆者

近年、大学の卒前卒後の研修についていろいろな問題（スーパー・ローテート、B S L 統一試験、卒後研修等など）を耳にすると思います。特に卒業を間にひかえた5、6年生の在校生の方々にとっては、進級、卒業、国家試験以上に大きな問題だと感じられる方が多いのではないかでしょうか？この紙面を利用して、一生の問題となりえると思われる卒後研修について、僕がこの一年間で学び経験した話をすると共に、在校生・卒業生に今一度この問題について考えてもらえば幸いと思い筆を手にしました。

Y. S のイニシャルで想像つく方もいらっしゃるでしょうが、あえて個人的なお話をさせていただきます。僕は、昨年（2001年）福岡大学を卒業し、ある大学病院の脳外科に入局し

ました。卒業の時に悩んだことは、福岡大学に残るか、地元の大学（または親の出身校）に行くか、さてはまったく知らないところに行くかでした。皆さん、どのようにお考えでしょうか？僕が考えていたことは、以下の通りです。

まずは、利点。福岡大学は我が母校！！つまり、トイレの場所から喫煙室までどこでもわかる。（場所がわかる）教授の名前は忘れても、顔はわかる。（上司を知っている）先輩、同級生、後輩、はては看護婦さんまで知っている。（顔が広い）うーん。さすが6年間は在校しだけあるところだ。

それでは、欠点は何だと考えますか？たとえば食堂や飲食店の食事に飽きた。（6年生はわかると思いますが、ローソン弁当に飽きてきた。）マンネリ化してきた。（元彼、元彼女と気まずい！福大、環境に飽きてきた）、福岡大学しか知らない。（福岡大学が持っているものしか身につけられない）等です。

実は、意外と無いものなのです。ですから、日本の大学出身者の多くは出身大学に残る方

多い事は意外なことではないと考えます。一部、福岡大学の卒後研修が悪いと言う話もありますが、そんなに差はないと思います。ただ、辛口評価ですが、良くもないと思っています。(大体、どこの大学の学生でも、同じ事を言っている) それでは、地元大学(または親の出身校)はいかがでしょうか?

まずは利点から。親の跡継ぎで開業を考えている方は、やはり地元が有利でしょう。理由としては、患者の送り先やコネを考えると遠い福大より、地元の大学を考えるほうが一般的には得策です。(とくに、教授や上司が親を知っている) 欠点は何だと思いますか?他大学に行く場合でも同じですが、喫煙室の場所から図書室の受け付けなど細かい場所まではわからない。他科の教授、上司がわからない。他科に知り合いがない。ただ、地元の大学は、意外と元同級生や知り合いがいるのですが・・・。しかし、利点がかなり大きいです。

さて、最後にまったく知らない所に行くという選択肢ですが、皆さんはどうのようにお考えですか?実は、全国的に見ても意外と少ない(個人的な友人達からの話ですが・・・)ですね。なにかしら関与がある、もしくは地元といわれる方が多い気がします。さて、利点ですが、僕が考えるに、福岡大学に無いものを学びたい。地元に戻りたくない。少数派ですが、彼氏、彼女の居る所に行きたい。(個人的にこの発想は、大好きです。) 僕みたいに都会または、田舎に行きたい。(笑い) などもあります。欠点は、地元大学にいった場合と同様ですが、大学の場所すらわからない。教授の名前は知っていても顔は知らない。(名誉教授は???) 後輩相手に敬語などでしょうか。以上かなり大げさに表現致しましたが、ある程度は的を突いているのではないかでしょうか?

それでは、これからは僕自身が今までに相談を受けた内容やどのように返答してきたかをまとめてみます。

福岡大学では、約半分の方の家が医者ではなかったと思います。その場合、他大学に行きたいと思う方も多いと思います。その場合の質問の多くは、まず、〇〇大学、〇〇病院に勤めたいけど、どう思いますか?といったものでした

が、返答の一つとして、なぜ、其処に行きたいか?そこで何を学びたいと思っていますか?と言っています。必ずしも、国立大学や有名私立が良い訳ではないと言う事を忘れないでください。まずはどこに興味があるか?〇〇大学、〇〇施設の何処の分野が強いか?そこに行くことが貴方にとってどのようなプラスになるか?などを考えたらよいでしょう。次に、最終的に何処に住みたいと思っていますか?と言う質問をさせていただいています。多くの方は、いずれ九州に戻りたいと思っている。という答えをいただいています。しかし、その場合に〇〇大学、〇〇病院に行った後、いつ頃、何処に戻るつもりなのか?までは考えていない方が多い気がします。東京のある有名病院では、研修医が終了後やめさせられて、面倒を見てくれず、出身大学に戻り研修医と同じ仕事をしていると言った話も聞いたことがあります。やはり、まず研修医が終わった後の道筋がきちんとしているか?そして10年後に何処に居たいかが、ポイントになると思います。何処にも行き場が無くなつた場合に、母校が最後の受け皿になることを忘れてはいけないと思います。最後に、頼りになるのは我が母校!!キャッチフレーズにしてもいいのではないでしょうか?

意外と多いのが、〇〇大学、〇〇病院に見学に行こうと思っていますが、何か最低でも調べた方がよいことはないですか?と言う問い合わせでは、希望する〇〇大学、〇〇病院のボスと気が合うかどうか?信用できるか?話を聞いてくれるか?です。やはり、親の反対などがあつても自分の希望する科、大学、病院に行く方は、最後は自分が決めるものですからきちんと見極めましょう!!(食事をおごってもらっただけでは、後で後悔しますよ。先行投資と思えば、学生におごる事は安いものです。)

まとめとして、僕自身上京して約1年半経ちました。最初に述べた、他大学に行く欠点は僕自身の経験を含んでいます。(仕事中話しかけてきたじいさんが、実は脳外科の名誉教授だった等) 日々の生活は病院内だけですが、毎日新しい事を知り、叱られ、患者と話をしながら生活をしています。当初の目標であった東京ディズニーランドには未だ行けず、いつの間にかデ

● キャンパス便り ●

イズニーシーができてしましました。結論として、僕自身が他大学に行った事は、現在のところ新しい経験（東京で生活し、福岡大学以外を知った）をした事以外に何ら目新しいことはありませんし、何処に行こうと本人のやる気と努力で何とでもなると思っています。（簡単に例えるならば、海外旅行みたいなもの）しかし、この新しい経験や身に付けるであろう技術が今後の僕の人生に何らかの光を与えてくれる可能性があると思っています。最後に、ある日医師

免許を持った時点で、突然あなたは普通の人ではなく、社会的責任と義務と期待が掛けられます。患者から見て、上級医師（教授、オーベン達）と研修医が同じ医師として同等に見られる事に気づいて下さい。今回この文章に、同意や意見等がありましたら是非ご意見を聞かせて下さい。最後に、稚劣な文を飽きずに読んで下さった方が、これからも楽しい人生を過ごされることを期待して筆を擱かせていただきます。

キャンパス便り

平成14年度第54回西医体結果報告

西医体委員長 渡邊 航之助 (M4)

主管岐阜大学のもと、今年も8月前後に、医学部生の血と汗と涙の結晶西医体が開催されました。結果報告を心待ちにされたOBの方々、

関係者各位遅くなってすみません。ここに西医体の結果を報告いたします。

第54回西日本医科学生総合体育大会結果

愛好会名	結果
ラグビー	2回戦敗退
バスケットボール	男子ベスト8・女子1回戦敗退
準公式野球	1回戦敗退
ゴルフ	22位
剣道	男子決勝トーナメント1回戦敗退・女子予選リーグ敗退
サッカー	2回戦敗退
バレーボール	男子1回戦敗退・女子1回戦敗退
硬式庭球	男子1回戦敗退・女子2回戦敗退
柔道	男子決勝トーナメント1回戦敗退
卓球	男子2回戦敗退・女子1回戦敗退
空手道	第4位、個人新人戦第4位M2桑原正裕
ソフトテニス	男子2回戦敗退・女子2回戦敗退、 男子個人ダブルス ベスト16 (M6斎藤・M5横田)
漕艇	予選敗退
バドミントン	男子1回戦敗退・女子3回戦敗退
水泳	順位なし
弓道	男子27位・女子31位

平成14年度 全日本医学生アーチェリー競技大会

団体 男子第2位

個人男子の部 第3位 M3林 賢正

個人女子の部 第2位 M4石村 恵美、第3位 M2加藤 千明

平成14年度 全日本医学生体育大会

ソフトテニス 男子個人ダブルス (M6斎藤・M5横田) 1回戦敗退

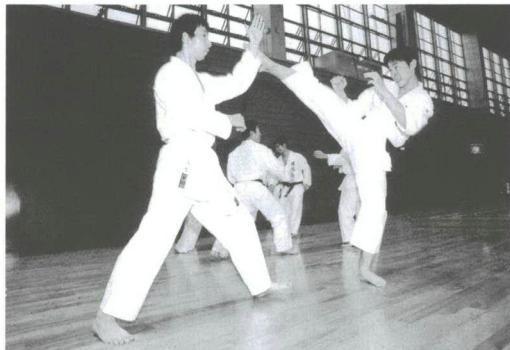
今回の西医体ではいくつかのサークルが優秀な成績を残したが、昨年度と今年度、団体戦4位という成績を残した空手道の方に今回の西医体について振り返ってもらっています。ごらんください。詳しい西医体の結果や今話題のコメ

ディカル問題などについて主管校がホームページに載せてていますので、アクセスしてみてください。

<http://plaza.umin.ac.jp/~nisiiitai/gifu/main.htm>

空手・西医体を終えて

空手道部 小野友輔 (M4)



今年の西医体において、私達空手道部は前年度と同じく団体戦4位という結果を残した。優勝を目指して修練を重ねてきて、結果として敗れはしたが後悔はしていない。素晴らしい仲間と一緒に一生の思い出を作ることができた最高の大会だった。

今回の大会を振り返ると、我々福岡大学は人数も応援（黄色い声援）も少ない。さらに他の大学は空手道経験者を揃えてきているのに、私達は経験者は唯一自分だけという状況であった。その自分も大会前になって足の骨にヒビが入ってしまうという事態になり、焦りから部内の雰囲気もばらばらになっていた。そんな時、私、そして空手道部を支えてくれてるのは顧問の白日病院長であり監督の二田先生、空手道場の師範、OBの方々だった。

そして迎えた前日のミーティングでは全員が

団体戦に出場したいと私に言ってきた。空手道競技は武道であるから当然なのだが、痛いし、何より大きな恐怖心との闘いでもある。私もできることなら逃げ出したいというのが本心だったが、部員のその意気込みに感動し、また甘い想いの自分を恥じた。もう何も不安や恐れはなかった。

そして大会当日、勉強による練習不足のため体力の少ない六年生と負傷の私を温存して予選に挑んだ。結果、予選を一位通過し、万全の状態のベストメンバーで決勝トーナメントを迎えることができた。接戦を制し、準決勝までたどり着いた。準決勝から雰囲気が一転し、会場は選手と審判のみしか入れなくなり、他の人は二階席まで移動することとなった。そして大学名、選手名が高らかに呼ばれる。相手は前年度優勝校だった。しかし選手全員に不安はなく

「おい、最高の舞台だな」という私の言葉に力強くうなづいてくれた。

しかし、結果として、一勝四敗で敗れてしまった。私は今まで自分が負けなければ、団体で負けても、さほど悔しくはなかった。しかし今回、個人的には全勝したのに何故か、涙を流す部員達を前にしたら、私も涙を止められなかつた。「精一杯やつたらそれでいい、顔を上げて帰ろう」と言う言葉で私は西医体、そして主将としての役目を終えた。本当に気持ちが一つとなつたいい大会だった。ただ付け加えるなら西医体という枠にとらわれず、学連や国体で活躍

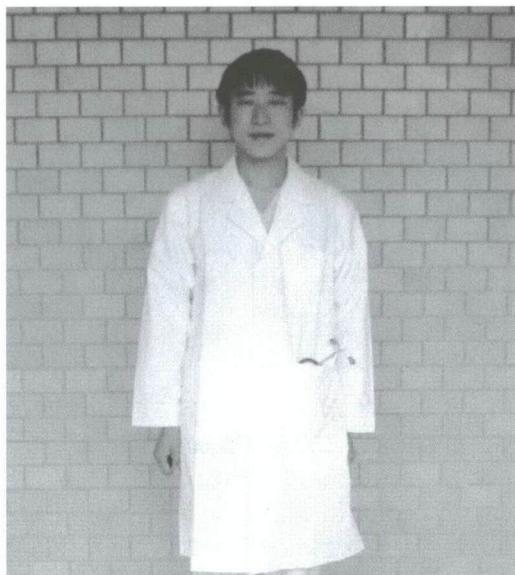
できるような空手道部に成長してほしいと思った。

最後に、この経験は、医師を目指す私達に大きな糧となった。私達の師範は常々、医学、医術、医道を追求しろと言われる。医学、医術は医師としての知識、技術であり、医道は医師としての心である。医学、医術は学校の講義や実習で学び、医道は日常生活やサークル活動の中で学ぶものであるということだ。

私は西医体、そして空手道を通じて医道を学ぶことができた。今後とも医学、医術、医道を追求して充実した毎日を送りたい。

築いていこう新しい医療の歴史を！わが福岡大学から

学生会員 藤山 俊一郎 (M5)



同窓会支給の白衣（筆者）



胸元のエンブレムとネーム

鳥帽子会会員の皆様、こんにちは。前号に引き続き、今回も寄稿させていただくことに大変感謝いたしております。

私はこの夏、休みを利用して国立がんセンターと関東圏の大学病院において病院実習をさせていただきました。

関東は日本各地の大学出身者が集まり、お互いが切磋琢磨して医療に取り組んでいます。国立がんセンターでは、多くのがん患者さんとお話をさせていただきました。

現在、男の平均寿命は78.07年、女は84.93年となっていますが、依然として「がん」は死因の第一位であります。また、医療の進歩により「治るがん」が出てきたからこそ、その先を考える必要があるのです。「自分ががんであることを知る権利」と「知らない権利」はどうちが優先されるべきでしょうか。

現在、医療システムのパラダイムシフトが求められています。わが国で急激に進む卒前、卒後の医学教育プログラム。マクドナルドの店員のように、笑顔で機械的にしゃべるというほど画一的な教育を強いているわけではないから、最低限、人として苦しみ病んでいる人にどう接するかを考える場となればいいのですが。

最近、よく週刊誌に「全国病院ランキング」という特集が組まれる。2004年度から導入されるという「マッチング・システム」にしても、

結局は研修病院のranking、研修医のgradingしか存在しない。「あそこは偏差値70～の病院だから」とか、それがために受験する「優秀な」学生を、「ぜひ採用したい」でしょうか？

これからはもっと「病院の多様性」をアピールしていくべきです。また、「本院全体の医療レベルは平均的かもしれないが、～の臨床をやらせたら、本院は世界的なレベルに達していると自負している。」でもいいのでは？

18世紀の大阪に富永仲基という学者がいました。20代で仏教／儒教／日本思想に精通した天才学者で、日本人の精神構造を批判検証した書物を著したそうです。彼の説によれば、印／中／日にはそれぞれの癖があり、インドでは空想に訴えた奇怪な伝説が多い（迷信）。中国では物事を大袈裟に言う（白髪三千丈などの誇大修飾）。日本ではやたらと隠したがる（企業の不正）。彼は、前2者は困った癖だが面白いのでまだまし、日本のくせは面白く無い上に害である、と喝破しました。300年後の日本でも事情は全く同じです。

マスコミは、今も「ミスはあってはならないこと」というこの国の文化に忠実にミスした当事者を非難しますが、いい加減「人は誤るものだからこそ、いかに人為的なミスから市民（の生命・財産）を守るか」という観点にたって議論をしてくれないものでしょうか。

日本人は今、小さな事にも大騒ぎします。それでいて本質を忘れているのです。BSEと牛肉偽装は全く別の問題なのに。大騒ぎするうちに本質論をどこかに置き忘れてしまっているのです。濃くなりすぎた麦茶も、薄めたら飲める知恵を人は持っているのです。

ブッシュ大統領が「正義のために悪を徹底的にたたきつぶす」と演説した。では、いったい

「正義」とは何か？今年の全米オープンテニスでは、イスラエルとパキスタンの選手がダブルスを組むことが大きなニュースになりました。これが当たり前になり、国籍、宗教に関係なくスポーツを楽しみ、競う日は来ないのでしょうか。これまで政治に翻弄されてきたスポーツを平和のために利用できないものでしょうか。

わが福岡大学に必要なもの。それは「混ぜること＆若返ること」だと思います。年を取った教授が幅を利かせている講座は問題です。

毎年7月に開催される鳥帽子会総会に、今年も学生会員として参加いたしました。多くの先生方とお話をさせていただき、やはりこの大学には他大学と違う魅力を感じます。卒業生、在学生、そして職員がお互い力を合わせて魅力ある大学を目指していきましょう。これからも、同窓会の先生方からプレゼントしていただいた白衣を身にまとい、「自分は鳥帽子会人なんだ！」という意識を強くもって臨床実習に励んでいきたいと思います。白衣を見て、「おっ、君は福岡大学出身だね。僕もだよ。」という会話が聞かれる日もそう遠くはないでしょう。

来年4月2日から8日まで、「第26回日本医学会総会」が福岡市で開催されます。日本の学術会議では最大規模のもので、福岡での開催は初めてです。これまで医療関係者中心の大会でしたが、今回初めて『みんなで創る健康社会』をテーマに、一般の人が参加できる「公開展示」も開催するようです。

医の道の原点は人類愛です。私たち医師と言う生業の崇高さを理解し、ともに社会を、人類を支えていきましょう。

みなさん、わが福岡大学から新しい医療の歴史を築いていきましょう！

「対話」の価値

学生会員 原田聰志（M5）

こんにちは。BSLが始まって、ちょうど半年が過ぎました。今、思い返してみると、本当にあっと言う間で、これほど時の経つのが早いの

かと驚く程です。しかし、BSLは、それだけ僕にとって、充実しており、熱中させてくれるものであり、本当に実りの多い毎日だと思いま



筆 者

す。患者さんの病歴をとり、自分で検査をし、又、検査室で検査を見せてもらい、検査値やレントゲン写真等を見ながら主治医と考え、時に見当違いな病気を言って怒られたりしながら（自分の知識の浅さと少なさをとても実感します。）、その患者さんの治療について考え、手術が必要な時は手術も見学させてもらい・・・と医者の仕事の一連の流れを自分で体験する事は、とても新鮮に感じます。一方で常に物事を考えないといけないという点で、今まであまり慣れていなかつた為大変です。しかし、このような医療の現場と体当たりすることで、自分の今の状況（自分の実力）がはっきりと分かり、又、医者としての物事の考え方や筋道、何が医療において大切なことなのかを知ることができます。それが、4年生までの授業とは違ったもので、BSLは、一つ一つ本当に理解しながら勉強できるものだと思います。

そのように、BSLを過ごしているのですが、BSL以外の時にも自分にとって大きな経験をしました。それは暇な時間に患者さんと話すことです。ちょっとした時間ができた時に、患者さんに話しかけに行ったり、時間があるときは、椅子を持ってきて、患者さんとずっと色々な話をしました。僕は初め患者さんにとって学生と話することは嫌な事ではないかと思っていたのですが、意外と話してみるとそうではなく、むしろ患者さんは話したいことがたくさんあり、うずうずしている事に気付きました。話をするとといってもひたすら聞き手にまわるのですが、実に興味深いものばかりでした。その方の過去の話や家族の話、仕事や趣味の話等の身近な話から、政治評論、スポーツ、芸術論、歴史観、差別問題、現代の医療の問題の話もあれば、哲学、宗教等の精神的な生き方を教えてくれる話もあり、今、思うと実にたくさんのこと

を患者さんを通して学びました。しかし、何よりも一番考えさせられたのは、患者さんの様々な悩みや苦しみ（この不況の時に入院を余儀なくされ仕事を失う事の不安、家族を支えなければならぬ悩み等）でした。時には、僕自身もあまりに辛くて、話を聞いた後、後悔したり、大変な疲労感を感じ何もしたくなくなったり、その事が気になって頭がいっぱいになって、勉強のことを忘れてしまう事もありました。そんな時、まだ人生経験の浅い僕が、これまで小説や映画を通してボンヤリとしか実感できなかつた、“人間がこの人生を生きていく事の難しさ”を、人生の先輩である患者さんを通して教えてもらったと思います。

僕は、そのように患者さんと、とにかく話をする毎日を送っていたのですが、改めて「対話」の重要性に気付きました。「対話」は、人と人との関係性を築いてくれるもので、深めれば深める程、より解りあうことができ、より内面的なつながりを作ってくれるものだと思います。相手の話をよく聞いてよく反応し、そして、自分の話も時々入れながら、自然に対話を進めます。すると、元々、全く知らなかつた相手でも、段々、親しくなってきていつの間にか知り合いになっていきます。対話は、実に当たり前にできるものでありながら、人間が幸せに生きていく事において最も重要なものが含まれていると感じました。しかし、反対に、対話がなくなると自然に関係は薄れていき、元の他人のようになっていき、又、対話が少ない事によって、お互いの事が解らず、誤解が生じてくることも感じました。対話をするか、しないかでとても大きな差が出てくるのです。対話は、身近なものであり、口さえあれば簡単にできるものでありながら、良い人間関係を作る事においては絶対不可欠なものであり、心と心の大切な架け橋だと思います。

BSLで医者の仕事の忙しさを目の当たりにするのですが、まず僕自身が医者になった時に、この「対話」の価値をしっかりと覚えていて実践していくこうと思います。

福岡大学医学部同窓会資料

平成13年度収入支出決算

区分	科 目	13 予 算	13 決 算	13年度決算予算比較	決 算 内 訳
収入	繰 越 金	7,226,929	7,226,929	0	入会費:109件5,397,200 学年会費:720件7,062,000 年会費:1,385件13,788,427
	会 費 収 入	16,152,000	26,247,627	▲10,095,627	バニックマコア:5件19,650
	協賛金収入	0	19,650	▲19,650	紹介手数料:2件26,513 集金手数料:102件813,287
	手数料収入	1,030,000	839,800	190,200	Tシャツ売上代:70,000 預金利息:1,725 広告掲載料:64件2,160,000
	雑 収 入	2,012,000	2,231,725	▲219,725	
	預り金収入	122,000	127,416	▲5,416	
	積立金繰入	3,000,000	2,000,000	1,000,000	刊行物積立金より:2,000,000
支出	合 計	29,542,929	38,693,147	▲9,150,218	
	給 与	3,460,000	3,037,446	422,554	給与2名×12月+1名×1月:2,750,286 賞与2名:287,160
	旅 費	1,748,000	1,583,770	164,230	理事会、懇話会:179,935 評議員会:404,405 私大連絡会:391,840 その他の役員旅費:393,750
	事務用品費	240,000	242,307	▲2,307	通勤費:213,840
	印 刷 費	6,404,000	5,107,384	1,296,616	会報回7,730部:1,843,212 名簿3,200部:3,035,487 封筒18,000枚:212,835 調査葉書2,500枚:10,500 その他:5,350
	通信運搬費	2,603,000	2,249,406	353,594	電信電話料:107,261 切手葉書:323,835 名簿調査:178,600 受取人払:15,680 別納郵便:1,468,865 その他:155,165
	設備工事費	200,000	1,159,368	▲959,368	プリント保守契約料:37,275 事務局拡充費:872,823 電気工事他:115,710 塗装工事他:113,610 その他:19,950
	什品備品費	500,000	854,574	▲354,574	パソコン2台:525,420 複写機:196,329 椅子:132,825
	事 業 費	6,410,000	5,973,278	436,722	総会費:156,537 研究奨励賞:1,500,000 講師招聘援助金:40,000 国試対策費:104,903 国試激励会:455,110 M4激励会(白衣含む) :1,022,420 新入生歓迎会(Tシャツ含)2回:1,479,295 国試慰労会:352,525 支部祝儀:60,000 慶弔:25,105 エンブレム制作料:231,525 学生行事参加:30,000 その他:515,858
	会 議 費	1,230,000	726,729	503,271	評議員会:333,086 理事会:259,038 会長懇話会:109,195 奨励賞選考委:25,410
	公租公課	70,000	80,000	▲10,000	法人県市民税:70,000 収入印紙:10,000
	雑 費	2,032,000	1,364,960	667,040	税理士報酬:31,500 渉外費:698,472 定年教授花束:45,000 広告掲載料:157,710 その他:432,278
	預り金支出	122,000	122,816	▲816	
	引当金積立	2,000,000	2,000,000	0	刊行物積立金引当:2,000,000
	予 備 費	2,523,929	0	2,523,929	
	合 計	29,542,929	24,502,038	5,040,891	
	収入差引	0	14,191,109	▲14,191,109	

平成13年度残金処分

残金額(収支差引額) 14,191,109円

◆次年度繰越 9,191,109円

◆事業積立金積立 5,000,000円

平成13年度特別会計決算

	事業積立金	医学教育研究基金	刊行物積立金	合 計
前 年 度 よ り 繰 越	82,436,095	3,053,497	4,002,720	89,492,312
本 年 度 増 加 額	3,000,000	0	2,000,000	5,000,000
本 年 度 受 取 利 息	5,512	845	3,201	9,558
本 年 度 減 少 額	0	0	2,000,000	2,000,000
本 年 度 未 決 額	85,441,607	3,054,342	4,005,921	92,501,870

平成13年度財産目録

平成14年5月31日現在

	一般会計	特別会計	合 計	特別会計内訳		
				事業積立金	医学教育研究基金	刊行物積立金
I 資産の部	14,392,379	92,501,870	106,894,249			
1 流動資産	14,191,109	92,501,870	106,692,979			
①現預金	14,191,109	92,501,870	106,692,979	85,441,607	3,054,342	4,005,921
振替口座	10,113,390	0	10,113,390			
郵便通常貯金	3,456,865	0	3,456,865			
郵便定期貯金	0	3,592,785	3,592,785	3,592,785		
普通預金〔福銀〕	620,854	20,004	640,858		20,004	
定期預金	0	88,889,081	88,889,081	81,848,822	3,034,338	4,005,921
福岡銀行	0	72,106,376	72,106,376	65,066,117	3,034,338	4,005,921
福岡シティ銀行	0	16,782,705	16,782,705	16,782,705		
現金	0	0	0			
②有価証券	0	0	0			
2 固定資産	201,270	0	201,270			
①有形固定資産	53,486	0	53,486			
②無形固定資産	147,784	0	147,784			
II 負債の部	0	0	0			
III 正味財産 (I + II)	14,392,379	92,501,870	106,894,249			
IV 前年度未財産	10,453,252	89,492,312	99,945,564			
V 増加額 (III - IV)	3,939,127	3,009,558	6,948,685			

平成14年度事業計画

項目	摘要	必要経費 (A)	科目内訳				平成13年度 (B)	比較 (A-B)	備考
会報の発行	印刷代：春220×3,700部= 814,000 秋250×4,300部=1,075,000 封筒代： 15×8,000枚= 120,000 郵送料：春180×3,100通= 558,000 秋180×2,500通= 450,000	3,017,000	事業費	印刷費	通信運搬費	会議費	2,913,000	104,000	入会費、学年会費 請求時に、秋号を 父兄に配布する。
総会の開催	総会準備会費	200,000	200,000				200,000	0	
研究奨励賞	5件以内	1,500,000	1,500,000				1,500,000	0	
支部活動援助	講師招聘援助費：50,000×12支部=600,000	600,000	600,000				600,000	0	
学生対策	新入生歓迎会： 900,000 (Tシャツ含む) M 4 激励会：1,000,000 (白衣含む) 国試激励会： 800,000 国試慰労会： 700,000	3,400,000	3,400,000				3,400,000	0	
国試対策費	国試対策費：200,000 副担任会議：250,000 国試応援費：200,000	650,000	400,000				250,000	450,000	200,000 国試応援費・新規
支部祝儀贈与	支部発足：50,000×2=100,000 支部会参加：30,000×10=300,000	400,000	400,000				400,000	0	
学生行事援助	西医体、全医体、医学祭援助：400,000 学生行事への参加：100,000	500,000	500,000				50,000	450,000	増額
慶弔贈与	祝儀、弔慰金、見舞金：20,000×3=60,000	60,000	60,000				60,000	0	
会員名簿の発行 (3年毎)	(今年度は実施せず)	0					5,188,000	▲5,188,000	
合 計		10,327,000	7,060,000	2,009,000	1,008,000	250,000	14,761,000	▲4,434,000	

積立金より支出

奨学金緊急貸付	緊急時における奨学金の貸付 (必要に応じ)	2,000,000
---------	-----------------------	-----------

平成14年度収入支出予算

区分	科 目	14 予 算	14 摘 要	13 予 算	13・14年度 予算比較
収入	緑 越 金	9,000,000		7,226,929	1,773,071
	会 費 収 入	19,177,000	入会費：49,880×95=4,738,000 学年会費：9,930×500人×0.8=3,972,000 年会費：9,930×1,589人×0.6=9,467,000 過年度会費：1,000,000	16,152,000	3,025,000
	協賛金収入	0		0	0
	手数料収入	920,000	紹介手数料：三井30,000 集金手数料：三井890,000	1,030,000	▲110,000
	雑 収 入	110,000	Tシャツ売上代：100,000 その他：10,000	2,012,000	▲1,902,000
	預り金収入	122,000	給与源泉徴収税：8,200×12月+12,000×2回	122,000	0
	積立金繰入	0		3,000,000	▲3,000,000
	仮 受 金	0		0	0
	合 計	29,329,000		29,542,929	▲213,929
支出	給 与	4,660,000	職員（給与：130,000×12月+賞与120,000×2回）×2人=3,600,000 パート給与：80,000×12月+賞与50,000×2回=1,060,000	3,460,000	1,200,000
	旅 費	2,040,000	理事会・懇話会：10,000×12回=120,000 評議員会：480,000 私大連結会：80,000×2人×3回=480,000 その他の役員旅費：500,000 通勤旅費 2人：30,000×12月=360,000 その他：100,000	1,748,000	292,000
	事務用品費	240,000	20,000×12月=240,000	240,000	0
	印 刷 費	2,209,000	会報：春220×3,700部+秋250×4,300部=1,889,000 封筒：大15×10,000枚+中小10×5,000枚=200,000 その他：10,000×12月=120,000	6,404,000	▲4,195,000
	通信運搬費	1,569,000	電話電話：10,000×12月=120,000 会報：180×5,600通=1,008,000 切手葉書代：200,000 別納郵便代：200,000 受取人払：70×300通=21,000 その他：20,000	2,603,000	▲1,034,000
	設備工事費	200,000	設備拡充のため	200,000	0
	什品備品費	500,000	器具備品整備	500,000	0
	事 業 費	7,210,000	総会費：200,000 研究奨励賞：1,500,000 卒後教育：50,000×12=600,000 新入生歓迎会：900,000 M4激励会：1,000,000 国試激励会：800,000 国試慰労会：700,000 国試対策費：200,000 国試応援費：200,000 支部祝儀：50,000×2+30,000×10=400,000 学生行事援助：500,000 慶弔贈与費：20,000×3=60,000 Tシャツ作製費：150,000	6,410,000	800,000
	会 議 費	1,330,000	理事会：200,000 評議員会1回：500,000 会長懇話会：200,000 奨励賞選考委員会：80,000 その他：350,000（含む副担任会）	1,230,000	100,000
	公租公課	70,000	法人県市民税：70,000	70,000	0
昇 格	雑 費	3,632,000	税理士報酬：32,000 慶弔費：200,000 渉外費：1,000,000 医学部創立30周年記念事業協力：2,000,000 その他：400,000	2,032,000	1,600,000
	預り金支出	122,000	給与源泉徴収税	122,000	0
	引当金積立	2,000,000	会員名簿、パニックマニュアル作成引当（刊行物積立金）	2,000,000	0
	仮 渡 金	0		0	0
	予 備 費	3,547,000		2,523,929	1,023,071
	合 計	29,329,000		29,542,929	▲213,929
	収入差引	0		0	0

教育職員人事（併任講師以上）

(○内の数字は福大医学部卒業回)

[平成14.4.2~14.10.1]

区 分	所 属	資 格	氏 名	発 令 日	摘 要
退 職	病 理 学	助 教 授	孟 晶	14. 6. 23	
	総 合 研 究 室	併任講師	柴 田 彦	14. 6. 30	
	血 液・糖 尿 病 科	講 師	向 野 賢	14. 7. 15	一身上の都合
	公 衆 卫 生 学	助 教 授	島 哲	14. 8. 31	福島医大衛生学教授
	薬 理 学	講 師	上 野 伸	14. 8. 31	浜松医大生理学助教授
	病 理 学	併任講師	大 慈 弥	14. 9. 30	一身上
昇 格	脳 神 経 外 科 学	助 教 授	山 本 正	昭 ⑦	14. 10. 1
	内 科 学 第 三	講 師	渡 辺	洋 ④	14. 10. 1
	泌 尿 器 科	講 師	田 丸 俊	三 ⑨	14. 10. 1
	内 科 学 第 三	併任講師	山 本 智	文	14. 10. 1
採 用	内 科 学 第 三	併任講師	岩 田 郁	⑬	14. 10. 1
	形 成 外 科	併任講師	三 川 佳	子	14. 10. 1
	病 理 部	助 教 授	鍋 島 一	樹	14. 10. 1
採 用	公 衆 卫 生 学	講 師	三 宅 博	吉	14. 10. 1

本学出身教授、助教授名簿

姓 名	回	役職名	勤 務 先
大 平 明 弘	1	教 授	島根医科大学 眼科学
清 永 明	1	教 授	福岡大学スポーツ科学部 健康運動学科
朔 啓 二 郎	1	教 授	福岡大学医学部 内科学第二
林 英 之	1	教 授	福岡大学医学部 眼科学
岩 本 英 明	5	教 授	福岡大学スポーツ科学部
木 村 恒 二 郎	5	教 授	島根医科大学 法医学 (15年4月広島大学就任決定)
宮 本 康 嗣	6	教 授	山口大学医学部 生体防御機能学
後 藤 英 一	1	助 教授	福岡大学医学部 救命救急医学
中 川 俊 正	1	助 教授	大阪医科大学 病態検査学
二 見 喜 太 郎	1	助 教授	福岡大学筑紫病院 外科
宇 都 宮 英 綱	3	助 教授	福岡大学医学部 放射線医学
浦 田 秀 則	3	助 教授	福岡大学筑紫病院 内科第一
大 慈 弥 裕 之	3	助 教授	福岡大学病院 形成外科
小 田 島 安 平	3	助 教授	昭和大学医学部 小児科学
櫻 木 忠 和	3	助 教授	福岡大学医学部 麻酔科学
辻 祐 治	3	助 教授	福岡大学医学部 泌尿器科学
廣瀬 伸 一	3	助 教授	福岡大学医学部 小児科学
松 永 彰	3	助 教授	福岡大学医学部 内科学第二
諸 江 一 男	3	助 教授	福岡大学筑紫病院 内科第一 (現在諸江内科開業)
浅 見 昭 彦	7	助 教授	佐賀医科大学 整形外科学
金 隆 史	7	助 教授	広島大学原医研腫瘍外科
田 代 英 一 郎	7	助 教授	福岡歯科大学 総合医学講座内科学
山 本 正 昭	7	助 教授	福岡大学医学部 脳神経外科学
黒 岩 宙 司	8	助 教授	東京大学大学院医学系研究科 國際保健計画学

正会員業態別人員

回	開 業	家 勤	勤 務	大 学 院	休 業	死 亡	留 学	未 合	未 確 認	件 数
1	40	4	16	0	1	2	0	0	0	63
2	49	8	22	0	3	1	0	0	0	83
3	44	10	33	0	1	2	0	0	0	90
4	67	15	35	0	0	0	1	0	0	118
5	49	17	43	0	0	3	1	2	0	115
6	53	15	48	0	2	2	0	1	0	121
7	56	5	64	0	1	2	0	0	0	128
8	50	25	68	0	3	2	1	0	2	151
9	32	11	71	0	1	0	0	1	0	116
10	26	14	59	2	0	1	0	1	1	104
11	22	16	70	0	5	2	1	2	0	118
12	19	8	60	0	2	1	3	0	0	93
13	13	13	78	0	6	0	4	0	1	115
14	10	8	72	1	3	1	2	1	1	99
15	6	6	74	1	3	0	4	0	1	95
16	6	15	90	2	6	0	3	3	2	127
17	6	9	76	6	2	1	4	0	0	104
18	1	5	79	10	2	0	2	0	0	99
19	0	4	76	19	3	0	1	2	0	105
20	1	1	88	13	1	0	1	3	1	109
21	0	2	82	6	1	1	1	1	0	94
22	0	1	88	3	0	1	0	3	0	96
23	0	0	92	0	0	0	0	1	0	93
24	0	0	88	0	0	0	0	2	0	90
25	0	0	90	0	0	0	0	4	0	94
	550	212	1662	63	46	22	29	27	9	2620

医局長・医長名簿

(○内の数字は卒業回、筑紫病院の*印は内科・消化器科の代表)

平成14年10月1日現在

所 属	医 局 長	病 棟 医 長	外 来 医 長
[福 大 病 院]			
血液・糖尿病科	安 西 慶 三	石 塚 賢 治	鈴 宮 淳 司
循 環 器 科	松 永 彰 ③	大 脇 和 男 ⑭	辻 恵 美 子
消 化 器 科	渡 邊 洋 ④	鈴 木 統 久	山 本 智 文
腎 臓 内 科	兼 岡 秀 俊	小 河 原 悟 ⑦	野 田 律 矢
呼 吸 器 科	石 橋 正 義	豊 島 秀 夫 ⑧	渡 辺 憲 太 朗
神 経 内 科・健 康 管 理 科	松 永 洋 一 ⑤	楠 原 智 彦 (6北) 宗 清 正 紀 (7階)	藤 木 富 士 夫 (神経) 宗 清 正 紀 (健管)
"			
精 神 神 経 科	石 井 久 敬	細 美 直 彦	李 健 黙 ⑫
" (ディケア)			河 野 耕 三
小 児 科	新 居 見 和 彦 ⑤	山 口 覚 ⑤	安 元 佐 和 ⑦
外 科 第 一	田 中 伸 之 介 ⑤	永 井 哲 ⑫	松 尾 勝 一 ⑪
外 科 第 二	岩 崎 昭 憲 ⑤	前 川 隆 文 ②	星 野 誠 一 郎
整 形 外 科	檜 田 伸 一	秋 吉 祐 一 郎	佐 伯 和 彦 ⑯
形 成 外 科	江 良 幸 三 ⑨	三 川 佳 子	江 良 幸 三 ⑨
脳 神 経 外 科	平 川 勝 之 ⑨	岩 朝 光 利 ⑯	繼 仁 ⑧
心 臓 血 管 外 科	芝 野 竜 一 ⑭	財 津 龍 二 ⑯	岩 橋 英 彦 ⑯
皮 膚 科	清 水 昭 彦	久 保 田 由 美 子	古 村 南 夫
泌 尿 器 科	辻 祐 治 ③	道 永 成 ⑫	富 田 能 弘 ⑯
産 婦 人 科	牧 野 康 男 ⑧	吉 里 俊 幸 (3東)	井 上 善 仁
"		宮 川 孝 ⑯ (3北)	井 上 善 仁
眼 科	大 里 正 彦 ⑨	木 村 亮 二 ⑯	近 藤 寛 之
耳 鼻 咽 喉 科	原 田 博 文	毛 利 穀 ⑯	今 村 明 秀 ⑯
放 射 線 科	秋 田 雄 三	中 島 力 哉 ⑭	木 村 史 郎 ⑬
麻 醉 科	櫻 木 忠 和 ③	廣 田 一 紀	平 田 和 彦 ⑫
歯 科 口 腔 外 科	喜 久 田 利 弘	宮 城 太 郎	梅 本 丈 二
病 理 部			
臨 床 検 查 部	大 久 保 久 美 子		
輸 血 部	熊 川 み ど り		
救命救急センター	益 崎 隆 雄 ⑪	武 田 卓	
総合周産期母子医療センター		雪 竹 浩 ③	
[筑 紫 病 院]			
筑 紫 病 院 (代 表)	宮 城 司 道 ⑨		
内 科 第 一	三 好 恵 ⑯*	浦 田 秀 則 ③	浦 田 秀 則 ③
内 科 第 二	二 宮 寛 ②	二 宮 寛 ②*	有 富 貴 道
消化器科・内視鏡部	櫻 井 俊 弘	植 木 敏 晴 ⑧	戸 原 恵 二 ⑧*
小 児 科	喜 多 山 昇 ⑧	喜 多 山 昇 ⑧	喜 多 山 昇 ⑧
外 科	長 谷 川 修 三 ⑫	東 大 二 郎 ⑯	紙 谷 孝 則 ⑯
整 形 外 科	伊 崎 輝 昌	古 賀 崇 正 ⑬	伊 崎 輝 昌
脳 神 経 外 科	風 川 清	堤 正 則	相 川 博
泌 尿 器 科	石 井 龍 ⑤	平 浩 志 ⑯	石 井 龍 ⑤
眼 科	武 末 佳 子 ⑪	武 末 佳 子 ⑪	武 末 佳 子 ⑪
耳 鼻 咽 喉 科	宮 城 司 道 ⑨	池 田 宏 之 ⑯	池 田 宏 之 ⑯
放 射 線 科	小 野 広 幸 ⑦		
麻 醉 科	堀 浩 一 郎 ⑬		
病 理 部	原 岡 誠 司		
救 急 部	三 原 宏 之 ⑨		

事務局からのご連絡

会報への投稿をお待ちしています

医学部創立30周年、同窓会も10年遅れの20周年となります。同窓生各位もいい齢を召され今や地域医療の中堅、お仕事の面でもご趣味の面でもそれぞれご活躍の事と思います。時に私たちの会報も33号を数えることとなりましたが、こちらの方は今にして成熟の域に達せず未だ道遠しのものどかしさをかこっています。古参大学の会報を拝見しながら何時もその深さ床しさに打たれ、にじみ出る母校愛や後輩への思いやりに感動します。私たちの会報も会員全部で作り上げて欲しい。会報は広報手段であると共に交流の場でもあるはずです。皆さんのご投稿で熟年の会報を作り上げようではありませんか。支部便りクラス会便りは勿論、趣味、主張、述懐、随筆、消息何でもご投稿下さい。字数は1300字以内、出来れば筆者の顔その他の写真をお添え下さい。(我が会報の特徴の一つは写真の多いこと、写真はこよなき交歓手段だと捉えています) 投稿手段は原稿用紙、フロッピイ、メールなど何でも構いません。短文の場合は会報に差し込みの“何でも投稿用葉書”をご使用下さい。締切りは設けません。

既にご案内のとおり現在“支部便り、クラス会便り”の原稿依頼は差し上げておりますが、どしどし支部やクラス会の様子をお知らせ下さい。

会員名簿をお大切に（あの手この手の名簿詐取作戦と戦っています）

鳥帽子会の会員名簿は3年毎に発行され、無料で正会員、準会員に配布されています。ご承知のとおり「個人情報」の漏洩は今や社会問題であり、この個人情報満載の名簿の取扱については何時も気を使っています。会員の方々もそいはるご承知のはず、名簿の散逸防止には十分ご留意戴いていることと存じますが、実態はなかなかそうもいかず、不動産業者等からのメールや電話に手を焼いた会員の方からお小言を頂戴するのもしばしばです。しかし一番気を使うのは「会員をかたった名簿詐取企図者」からのアタックです。単純に「名簿が着いていない」「購入したい」はもう時代遅れで、理由は益々複雑化し手管も実に巧妙になりました。転居、結婚、離縁、開業、紛失などにさらに色々の理由が絡んで事情がふくらみます。話術も巧みでうつかりしていると完全に騙されます。騙されないように冷静に話題を分析し、矛盾点を的確に捉えなければなりません。話を交わしているうちに形勢不利と見て引き下がる人もいますが、執拗に食い下がる人もいます。中には手を換え、宛名を書いて切手を貼った返信用封筒が送られて来る事もあります。話の後でこちらから直接ご本人に電話して確認する事にしています。今まででは全部100%が嘘で事なきを得ました。今後益々情報管理に注意しなければならないと考えていますが、皆様もご一緒にご協力下さい。

鳥帽子会エンブレムをご使用下さい



A



B



C

印刷物、グッズなどご遠慮なく無断でご使用下さい



ネクタイ
1本 ¥10,000
(送料:無料)



Tシャツ
1枚 ¥2,000
(送料:無料)

烏帽子会グッズを愛用しましょう



スカーフ
1枚 ¥10,000
(送料:無料)



福岡大学歌集CD
福大グッズ
1枚 ¥1,000
(送料実費、1枚の場合180円)

ご注文の際は下記へご連絡下さい

福岡大学医学部同窓会事務局

TEL 092-865-6353・FAX 092-865-9484
E-mail: eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

烏帽子会会報第33号

発行日 平成14年11月15日

発行人 高木忠博

編集人 井上隆則

発行所 〒814-0180

福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会

電話.092-865-6353 (直通)

092-801-1011 (代表)

内線 3032

FAX.092-865-9484

E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷(株)